

平成24年度 大仙市立中学校生徒海外派遣事業

オーストラリア研修報告書



平成25年1月3日（木）～1月11日（金）

日程		地名	現地時刻	交通機関	行程	朝食	昼食	夕食
1	1/3 (木)	大仙市役所(集合) 大仙市役所発 仙台空港着 仙台空港発 グアム空港着 グアム空港発	6:15	貸切バス	1階市民ホール集合 出発式 貸切バスにて仙台空港へ(* 不要な上着はバスに置いていきます。) 出国手続き後、ユナイテッド航空にて空路、グアムへ(所要4:00) 出発時刻まで空港内にてフリータイム 空路、ケアンズへ(所要4:50) 【機中泊】	×	○ 機内食	○ 機内食
			6:30 9:50 11:50 16:50 19:35					
2	1/4 (金)	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォールズ	00:25	専用車	入国手続き後、マンガリーへ移動(所要:約1:40) レインフォレストロッジにて朝食後、休憩 オリエンテーション(心構え、マナー等の説明)後、 ホストファミリーと面会(5家庭) ファームステイ先へ移動 オーストラリア体験生活 スタート 【ファームステイ泊】	○ ロッジ	○ ステイ先	○ ステイ先
			01:30 03:00 08:30 11:00					
3	1/5 (土)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 (家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます) 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
4	1/6 (日)	マンガリフォールズ	終日		ファームステイ ホストファミリーとの生活 (家族との生活、ファームのお手伝いを体験していただきます) 【ファームステイ泊】	○ ステイ先	○ ステイ先	○ ステイ先
5	1/7 (月)	マンガリフォールズ	10:00		各ステイ先よりマンガリーに集合(集合後、報告会) 昼食後、現地生徒(オージーキッズ)との交流[チームラフトビルド、障害物レースなど] 夕食はオージーキッズと一緒にバーベキュー 後、さよならパーティー 夕食後、土ボタル鑑賞へ出発 【レインフォレストロッジ泊】	○ ステイ先	○ ロッジ	○ ロッジ
			14:00 18:00 20:30					
6	1/8 (火)	マンガリフォールズ	6:30	専用車 船	ロッジにて朝食 マンガリーを出発 グリーン島観光(エコアドベンチャー) 世界自然遺産グレートバリアリーフに浮かぶサンゴの島で 海水浴やマリンスポーツを体験していただきます(4時間) [海底透視船またはシュノーケリング/プールなど] グリーン島出発 ケアンズ市内(ホテル)へ ケアンズ到着 夕食 【ディスカバリーケアンズ泊】	○ ロッジ	○ グリーン島	○ ホテル
		グリーン島	8:00 10:30					
7	1/9 (水)	ケアンズ	9:00 10:00 14:00	市バス	『自然環境学習』:植物園(Cairns Botanical Gardens) 『キャリア学習』:ヒルトンケアンズへの職場訪問とバックヤードツアー (日本人スタッフ対応) 【ディスカバリーケアンズ泊】	○ ホテル	× 各自	× 各自
8	1/10 (木)	ケアンズ	9:00	専用車 鉄道	ホテルにて朝食後、キュランダ観光へ出発 キュランダ渓谷鉄道に乗りしキュランダへ(所要:約2:00) [キュランダ村、アボリジニショー、アーミーダック、ブーメラン投げなど] ケアンズ市内散策後空港へ 空港チェックイン 【機中泊】	○ ホテル	× 各自	× 各自
		ケアンズ空港着	9:30 20:20 20:50					
9	1/11 (金)	ケアンズ空港発	01:20	UA099	出国手続き後、ユナイテッド航空にて 空路、グアムへ(所要:4:35) 出発時刻まで空港内にてフリータイム 空路、仙台空港へ(所要:4:00) 入国手続き後、貸切バスにて大仙市へ	○ 機内食	× 各自	×
		グアム空港着	06:05					
		グアム空港発	07:50	貸切バス				
		仙台空港着	10:50					
		仙台空港発	12:20					
		大仙市大曲交流センター着	16:00					

平成24年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業派遣生徒一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大 曲	2	太田志帆	女	11	西仙北	2	大沼拓也	男
2	大 曲	2	加藤美範	女	12	西仙北	2	福田伊織	男
3	大 曲	2	木村宣貴	男	13	中 仙	2	戸堀美奈子	女
4	大 曲	2	小西花菜	女	14	豊 成	2	高橋日輪	女
5	大 曲	2	佐藤百花	女	15	協 和	2	今野利々佳	女
6	大 曲	2	辻田京香	女	16	協 和	2	堀江知夏	女
7	大曲西	2	田口智尋	女	17	南 外	2	小林 遥	女
8	大曲南	2	佐々木明璃	女	18	仙 北	2	大山 隼	男
9	平 和	2	鈴木理彩	女	19	仙 北	2	竹村侑花	女
10	西仙北	2	阿部倫己	男	20	太 田	2	本谷桃香	女



事前説明会

10月10日（水）PM 6：00～ ・派遣生等紹介 ・教育指導課長より ・諸連絡（教育指導課） ・パスポート取得、旅行準備について（日本旅行）	場所：大曲図書館3F 視聴覚室
12月19日（水）PM 6：00～ ・ファームステイ及び日程についての最終確認等（日本旅行） ・緊急連絡先記入／提出（教育指導課教育研究所）	場所：大曲図書館3F 視聴覚室

事前学習会

10月24日（水）第1回学習会 PM 4：30～6：00 ・CIRによるオーストラリアの文化紹介 ・自主研究テーマの設定 その他 ※海外旅行のためのお伺い書 FARMSTAY QUESTIONNAIRE、保険の申込書の提出	場所：大曲図書館3F 視聴覚室
11月29日（木）第2回学習会 PM 4：30～6：00 ・自主研究テーマの提出（面接により、自主研究テーマを広げる・深める） ・英会話レッスン（自己紹介・機内・税関・ショッピング・ホテル・道をたずねる・乗り物にのる） ・出入国カードの記入について	場所：大曲図書館3F 視聴覚室
12月26日（水）第3回学習会（結団式） AM 9：30～11：30 ・ファームステイグループごとの打ち合わせ（日本文化紹介準備活動等） ・作成レポートについて（様式、枚数、締め切り等） ・報告会について ・結団式	場所：大曲図書館3F 視聴覚室

オーストラリア海外研修

1月3日（木）～1月11日（金）	場所：オーストラリア（ケアンズ）
------------------	------------------

研修報告書作成と提出

海外研修終了後～2月1日（金）教育指導課教育研究所必着で提出

報告会・解団式

2月27日（水）報告会及び解団式 PM 3：00～4：30 ・代表者感想発表 ・グループに分かれてグループ別報告会及び協議	場所：仙北ふれあい文化センター
---	-----------------

結団式

派遣生徒代表誓いの言葉

この度の海外派遣事業に参加出来ることを大変嬉しく思います。

私は、外国や英語に興味・関心があり、将来は英語をすらすらと話せるようになることが目標です。

ファームステイ先では、グループの仲間と協力して、オーストラリアの家庭生活を体験しながら、生の英語に触れ、言葉と心の触れ合いを大切にして、幅広い視野や国際感覚、語学力を養いたいです。また、私の自主研究テーマである「環境・自然」について、実際にオーストラリアの大自然に触れて、しっかりと見て聞いて学び、これからの生活に役立てていきたいです。

派遣生20名の仲間や同行してくださる先生方、添乗員の方との交流を大切にして、事故のないよう気をつけて、一生の宝物となる有意義な9日間を過ごしていきたいと思っています。



大曲中学校 佐藤百花

私が、この研修に参加した理由は、英語に興味があり、また、コミュニケーションなど英語に大切なものを本場で体験し、学びたいと思ったからです。

私がオーストラリアでの研修で頑張りたいことは主に二つです。

その一つ目は、参加したい理由にもあげた、「コミュニケーション」です。ファームステイの方たちだけではなく、色々な人としっかりコミュニケーションをとることです。そのためには、「相手の目をしっかり見て話すこと」を心がけたいと思います。

二つ目は、自分の設定したテーマの追究です。私のテーマは「どうすれば森林を残していくことができるのだろうか？」ですが、テーマを追究できる時間も限られているので、短時間で集中してたくさんのことを学べるようにしたいです。

この9日間は、元気に、また、一緒に研修に行く人たちとも仲良く出来るように頑張りたいと思います。



太田中学校 本谷桃香

H 2 4 年度海外派遣生徒自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	自主研究テーマ
1	大 曲	2	お 太 田 志 帆	女	地球を eco な環境にするためには、何ができるだろうか？
2	大 曲	2	か 加 藤 美 範	女	食料自給率をあげるためにどんなことが工夫できるだろうか？
3	大 曲	2	き 木 村 宣 貴	男	自然環境を維持していくための工夫には、どのようなものがあるか？
4	大 曲	2	こ に し は な 小 西 花 菜	女	よい環境を保つにはどんな工夫ができるだろうか？
5	大 曲	2	さ と う も も か 佐 藤 百 花	女	豊かな自然や環境を守るためにはどうすべきか？
6	大 曲	2	つ じ た き よ う か 辻 田 京 香	女	健康のためにはどんなライフスタイルが望ましいか
7	大曲西	2	た ぐ ち ち ひ ろ 田 口 智 尋	女	よりよい生活をするための環境づくりとしてどんなことができるだろうか。～水を中心に～
8	大曲南	2	さ さ き あ か り 佐 々 木 明 璃	女	環境保護活動をより充実させるためには、どうすべきか？
9	平 和	2	す ず き り り あ 鈴 木 理 彩	女	1人1人が環境保護への意識をもち、自然を守っていくにはどうすべきか？
10	西仙北	2	あ べ と も き 阿 部 倫 己	男	オーストラリアでは、世界遺産を保護していくために、どのような工夫をしているのだろうか？
11	西仙北	2	お お ぬ ま た く や 大 沼 拓 也	男	大仙市にさらに観光客が来るようにするためには、どのような工夫をするべきか？
12	西仙北	2	ふ く だ い お り 福 田 伊 織	男	よい環境を保つために、ゴミや水資源についてどのような工夫ができるか？
13	中 仙	2	と ぼ り み な こ 戸 堀 美 奈 子	女	CO ₂ の増加について私たちにできることは何か？
14	豊 成	2	た か は し か り ん 高 橋 日 輪	女	オーストラリア人と日本人 ～人にやさしくするためにできること～
15	協 和	2	こ ん の り り か 今 野 利 々 佳	女	伝統食や食文化を引き継いでいくためには、どんなことができるか？
16	協 和	2	ほ り え ち な つ 堀 江 知 夏	女	Eco 活動としてどんな工夫ができるだろうか？ ～節水の取組を中心として～
17	南 外	2	こ ば や し は る か 小 林 遥	女	ゴミの排出を減らすのにどんな工夫ができるだろうか？
18	仙 北	2	お お や ま は や と 大 山 隼	男	節水の取組には、どのような工夫があるだろうか？
19	仙 北	2	た け む ら ゆ う か 竹 村 侑 花	女	日本の自然環境をよりよくするにはどうすべきか？
20	太 田	2	も と や も も か 本 谷 桃 香	女	どうすれば自然を残し、環境を守ることができるのだろうか？

事前学習会の様子

10月24日（水）

一緒にオーストラリアに行く仲間との初顔合わせです。ちょっと緊張しながら自己紹介ゲームで楽しみました。その後はレベッカ先生からのオーストラリアクイズタイムです。ペアでたくさん当てることができた人たちにはプレゼントも準備されていて、皆燃えていました。皆さんもチャレンジしてみてください。

Q. オーストラリアのカンガルーの数は？



- ① 500万匹
- ② 1000万匹
- ③ 3000万匹
- ④ 6000万匹
- ⑤ 9000万匹

（答えは最終ページにあります）

11月29日（木）



グループになって、ALTの先生方と英会話の練習をしました。とても優しく丁寧に教えてもらい、少し自信ができました。「大事なことは伝えようとする気持ち。ホストファミリーは何度でも聞いてくれるよ。」とアドバイスをもらい、頑張ってみようと思いました。

オーストラリア入国の練習です。
まずは入国審査。

“How long are you going to stay here?”
“ええと、for a week...かな？”

その調子、その調子。



税関での荷物検査。中から食べ物が出てきました。オーストラリアは原則として食品の持ち込みはできません。

“え～っ！私入れた覚えがないんだけどなあ…”



係員（レベッカ先生）に
“What’s this?” と尋ねられ、
— “It’s 味どうらく！”
“What is 味どうらく?”
— “う～ん???”

自分の持っている英語力で切り抜ける練習です。

12月26日（水）



ファームステイごとのグループになり、最後の学習会です。



「どんなホストファミリーかな？」
「おみやげは何を持って行こうか？」
「どんな日本文化を紹介する？」
仲良く相談です。

オージーキッズとの交流会で何をするかも、皆で話し合って決めました。



結団式の様子

参加する生徒全員の名前が呼ばれ、紹介されました。あらためて大仙市の代表であることへの責任と自覚で、気持ちが引き締まります。



大曲中学校の佐藤さん、太田中学校の本谷さんが、派遣生徒を代表してあいさつをしました。

緊張しながらも、研修に臨む決意を堂々と発表してくれました。

他の派遣生徒も、真剣な表情です。教育長の激励を受け、充実した研修にしようという意欲が高まります。

将来の大仙市を担う生徒たちの頼もしい様子に、教育長も期待しています。



大自然の *Australia* で

学んだこと

No. 1 大曲中学校 太田志帆

I. はじめに

私は、中学生になってから英語に興味をもち始めました。きっかけはALTの先生と話をしたことです。初めて話をした時、文化も言葉も違う人と話ができていることに感動を覚えました。そして、私はいつしか、「外国の文化や習慣をもっと学んでみたい。そして、**コミュニケーション能力を身につけて将来活用したい!**」と思うようになり、この研修への参加を希望しました。

オーストラリアへ行けると決まった時、私はとても嬉しかったのですが、それと同時に不安や緊張感でいっぱいになりました。しかし、そんなことを考えている間にもう出発の日がやってきました。…そして私を待っていたのは、想像をはるかに超える大自然、オーストラリアの夢のような世界でした!!

●研究テーマ

地球を eco な環境にするためには、何ができるだろうか?

II. テーマ設定の理由

このテーマを設定した理由は、今世界的に問題となっている地球温暖化を食い止めるためにはどのような工夫をすればよいのだろうかと考えたからです。

自然が豊かなオーストラリアで、どうすれば eco な環境を保つことができるのかを調べ、世界の国々と比較することで、今取り組まなくてはならないことを見つければ住みよい環境にすることができると思い、このテーマを設定しました。

III. 研究方法と研究結果

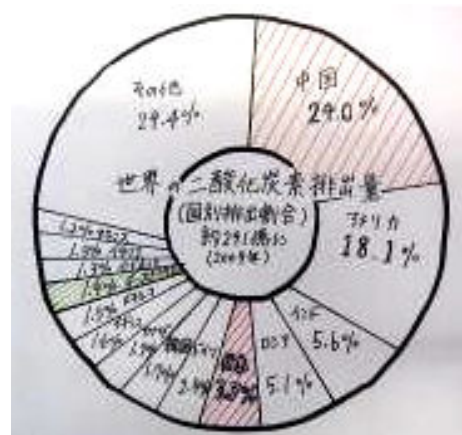
～調べたこと～

私は、次の二つについてオーストラリアと他の国々を比較しました。

- ① 環境を汚染しているもの
- ② 環境によいもの

① 環境を汚染しているもの

環境を汚染しているものは大きく分けて二つあります。一つは排気ガスです。私たちは移動するときに必ずといってよいほど車を使います。車を世界中の人が使うとたくさんの排気ガスが出ると思います。そこで、世界の二酸化炭素排出量を調べてみました。



右の表を見てみると、1位の中国が全体の24.0%を占めています。そして、私たちの住んでいる日本は5位で3.7%です。オーストラリアは11位で1.4%となっていて、日本や中国よりも二酸化炭素排出の割合が少ないことがわかります。それは、人口が少ないからだと思いました。オーストラリアの面積は日本の約20倍です。しかし、逆に人口は日本の方が多く、日本の人口はなんとオーストラリアの約5.5倍です。人口が多い分、車の利用が多くなると二酸化炭素の排出量も多くなるのだと思いました。

二つめは森林減少の問題です。私が住んでいる秋田県は他の地域よりも緑が多いと感じていました。しかし、オーストラリアへ研修に行き、とても驚かされました。あたりを見渡せば山、森、林…と、秋田県とは比べ物にならないぐらいの緑であふれていました。オーストラリアは、環境とさまざまな生物を保護するため、政府によって保護制度が施行されているそうです。中でも、特別地域として管理されている国立公園は550以上もあります。国立公園の他にも6000もの保護区があり、積極的に保護活動を実施しています。今、地球全体では森林伐採などの問題を抱えています。すべての国がオーストラリアのように、もっと積極的に森林の保護活動をしていけばよいと思いました。

② 環境によいもの

オーストラリアで環境によいものについて調べてみました。それは森林や緑の多さです。車やバスで移動しているときたくさんの森林や山を見かけました。その他に、ファームステイ先のVOSSさんの家でもたくさんの草花や野菜を見ることができました。家の外にはとても広い庭があり、バドミントンをすることもできました。これらのことから、広大なオーストラリアはたくさんの緑であふれていることがわかりました。

植物園の人からは、環境を守るためには虫や動物とも共存していかなければならないと教わりました。私は虫が苦手でしたが、この話を聞いて虫のよいところを知ることができました。

IV. Australia でのエピソード

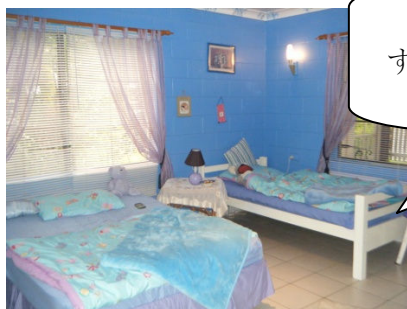
オーストラリアでは、たくさんの思い出を作ることができました！

◎ファームステイ先での思い出

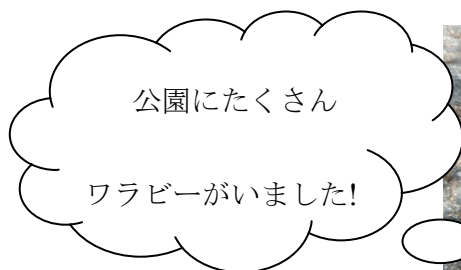
ファームステイ先では、とても楽しかったことやちょっとしたハプニングもありました。楽しいと思ったことは、ホストマザーとグループのみんなでゲームをしたことです。最初は、ルールがよくわからず戸惑いましたが、やっていくにつれてわかるようになりました。他に楽しかったことはみんなと一緒にピクニックに行ったことです。ピクニック先ではたくさんのワラビーとふれあうことができました。昼食では、マンゴーを食べました。とても甘くておいしかったです。

ちょっとしたハプニングとは、ホームステイ先のシャワーが出なくなったことです。原因はよくわかりませんでしたが、一番後にシャワーを浴びる予定だった私は啞然としてしまいました。でも、日本ではありえないことだったのでよい体験となりました。

ホストファミリーとのお別れは悲しかったのですが、楽しい日々を送ることができ、よい思い出ができました。



ファームステイ先の泊まった部屋です。きれいで驚きました!!



◎グリーン島とキュランダでの思い出

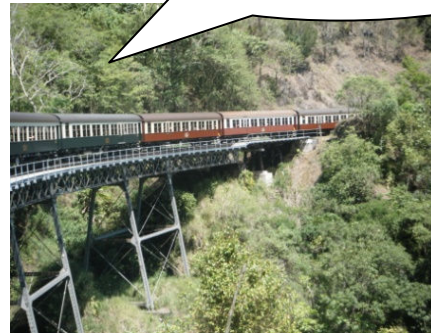
グリーン島ではシュノーケリングをしました。シュノーケリングをしたのは初めてで難しかったのですが、とても楽しかったです。たくさんの魚がいてきれいでした！

キュランダでは、地元の鉄道に乗りました。100年以上の歴史をもつレトロなキュランダ観光鉄道に乗り感動しました。その日はオーストラリアでの滞在最終日だったので、窓から流れる景色を見ていたら少し寂しくなりました。

海がきれいなグリーン島



とてもレトロな観光鉄道



～海外研修を終えて～

この研修では、二つのことを学ぶことができました。一つ目は話をするときはしっかり相手に伝えたいと思うことです。伝えたいと思う気持ちがなければ相手にも伝わりません。二つ目は笑顔で話をするということです。笑顔はコミュニケーションをするときにとても重要な役割をしています。この二つのことは、生きていく中でとても大切なことだと思います。

今回学んだことは、きっと私の将来に役立つと思います。いや、絶対に役立っていきます。この研修に参加することができて本当によかったと思います。

Australia

レポート ~食糧問題について~



NO.2 大曲中学校 加藤 美範

I はじめに

「オーストラリアに行きたい！」初めてそう思ったのは中1のころ。部活動の先輩がこの研修に参加したことを紹介してくれたときでした。先輩は、オーストラリアでの出来事をととても楽しそうに話してくれました。大仙市の中学生の代表として海外へいく先輩を私はとてもかっこ良いと思い、自分も先輩のようにオーストラリアに行きたいと強く思いました。

また、生の英語に触れてみたい、日本と違う文化や生活を実際に体験してみたいという思いもありました。私は、海外の本や映画が大好きです。でもその生活は、日本では体験することはできません。いつか実際に体験してみたい、と前々から思っていました。

研修に参加できることが決まったときは、喜びでいっぱいになりました。そして、不安もでてきました。しかし、実際に私がすごした9日間は不安など全くなく、すてきな楽しい日々でした。オーストラリア最高！！

研究テーマ「食料自給率をあげるためにどんなことが工夫できるだろうか？」

II テーマ設定の理由

日本の食料自給率（カロリーベース総合食料自給率）は約40%。秋田県だと164%と高いものの、米を除いた日本の食料自給率は約21%。今後、TPPの影響などによってどんどん下がっていくと予想されます。しかし、オーストラリアの食料自給率は先進国のなかでも上位。オーストラリアの取組や工夫について調べることで食料自給率を上げるヒントが見つかるのではないかと考え、このテーマを設定しました。

III 研究方法と研究結果

【調べた内容】

- ①取り組んでいること
- ②一人一人の意識について

①取り組んでいること

大仙市では平成19年の夏に「食と農を語る会 in 大仙市」が開催されており、食料自給率について話し合いがされています。市内のスーパーには「地産地消コーナー」が設置されているなど、積極的な取組が行われています。

オーストラリアではどのような取組が行われているのか調べようとホストマザーに質問をしたところ、「卵は飼っているにわたりの自家製卵。水はできるだけ雨水を使っている。」と答えてくれました。農場が多く、水が少ないオーストラリアらしい取組だと思いました。

また、ケアンズにあるヒルトンホテルのレストランでも、できるだけ地元の食材を使うようにしています。特にフルーツはほとんど地元のものを使っているということでした。

スーパーには、大仙市のような地産地消コーナーはありませんでした。しかし、売られている商品を実際に手にとって見てみると、そのほとんどがオーストラリア産。大仙市のスーパーではバナナはフィリピン産、ブロッコリーはアメリカ産、アスパラガスはペルー産、かぼちゃはメキシコ産などといったように、輸入品を多く見かけますが、オーストラリアのスーパーではあまり見かけませんでした。私が買ったグミの袋には、100%



▲100%オーストラリア産グミ

made in Australiaと表示されていました。今、自分がいる場所が食料自給率上位国オーストラリア、ということを実感しました。

②一人一人の意識について

私たちが食べ物を買うとき、食料自給率を意識して買うでしょうか。私は「値段」と「品質」に気をつけて、できるだけ安く買うことを考えます。

オーストラリアではどうでしょうか。ホストマザーに意識していることや気をつけていることはあるか質問してみました。するとホストマザーは、食べ物を無駄にしないよう買うときに気をつけていると答えてくれました。また、移民が多い国だから、その分様々な国の伝統食があると言っていました。伝統食は時々食べるそうです。伝統食にも地元の食材を積極的に使うので、結果的に地産地消となります。

私もホストマザーのように気をつけて買い物をしたいと思いますが、国産のほうが値段が高い商品が多いです。より安い物を買いたいと思ってしまいます。

植物園を案内してくれた人は、値段が高いといっても環境を保護する分も含まれていると思えば安いと教えてくれました。輸入するとき船、飛行機、自動車などは運搬のためのエネルギーを使います。その分を減らすことは環境保護にもつながります。案内役の人の言葉は私の心に強く残りました。

IV 研究のまとめ

今回の研究で自分の街、大仙市を改めて見つめ直すことができました。そして、**よりよい大仙市になるために**何をしなければいけないのかが分かりました。

この研究をする前は、大仙市が食糧問題においてどんな取組をしているか知りませんでした。大仙市をより一層知る機会ができてよかったです。私たちの市で行われている地産地消などの積極的な取組ををこのまま続けていけば、きっと大きな成果がでると思います。

調査をして、オーストラリアと大仙市（日本）では一人一人の意識がかなり違うことがわかりました。オーストラリアの方々を見習わなければいけないと思いました。長い時間をかけてでも全員が同じような意識をもち、高めていくことによってよりよい大仙市になるのではないのでしょうか。

今、私にできることはあまり多くはありませんが、今回学んだことをこれからの生活で実践していきたいと思います。

V 大発見！オーストラリアと日本の違い

オーストラリアでは、貴重な体験をすることができました。私はそこで、日本との違いをたくさん見つけてきました。

①シンク



左の写真はファームステイ先の台所にあるシンクです。普通、日本ではこのように二つにわかれてはいません。ホストマザーに頼まれて食器洗いを実際にこのシンクを使って行いました。まず、左右両方のシンクに水を溜め、左側に洗剤を入れます。左のシンクで洗った食器を右のシンクですすぎます。水を出しっぱなしにすることがなく、とても節水になります。水を大事にするオーストラリアらしいシンクだと思いました。

②食

一番カルチャーショックを受けたのはやはり食べ物です。バーガー類がとにかく多かったです。日本ではバーガー類なんてハンバーガーショップでしか食べません。オーストラリアでは、その日によって具は違いましたが、お昼に何回か食べました。パンが重く、お腹にずっしりきました。



左の写真は夜の9時ごろに食べたデザートです。夜の9時に食べること自体驚きですが、内容にも驚きました。できたての熱々パイに冷たいアイスクリームをのせたものです。そして、温かい紅茶。日本の夏の夜にはとうてい食べないようなデザートでしたが、おいしかったです。



VI エピソード

私の最高の9日間の思い出です。

①ファームステイ

「感謝」、この二文字をホストファミリーに一番に伝えたいです。とても親切で優しいファミリーでした。日本の文化紹介では、一緒に折り紙をつくったり、箸をプレゼントしたりしました。日本の物をコレクションにし、日本が大好きな方たちで、日本刀をもっていたことには驚きました。また、動物をたくさん飼っていました。犬が2匹、ネコが2匹、インコが4羽、蛇が2匹…様々な種類の生き物がいて最初は怖かったのですが、人なつっこかったのですぐに慣れました。動物たちも私たちに親切だったような気がします。ホストファミリーには大変お世話になりました。そのお陰で素敵なファームステイをすることができました。いつか、また会いたいです。

▼ホストファミリーのダニル



②オージーキッズとの交流

彼らと一緒に泥まみれになって遊んだあのひとは一生忘れられません。共に手をつなぎ走ったときの解放感は、この先味わうことはないでしょう。最高の時間でした！私たちとはまったく違う人たち、でも間違いなく仲間でした。裸足で平気で走る姿は逞しかったです。私もそれにならい、裸足で走りました。草が足の裏に痛く、少しヒリヒリしましたが、すぐに気にならなくなりました。最後はみんなでダンスを踊り交流を終わりました。あつというまの時間でした。また彼らと遊びたいです。

VII 研修を終えて

「楽しかった！」何度も、口にだしてしまいます。様々な発見、驚き、感動、出会い、喜びの研修でした。

「学びの9日間」を私は今回の研修で過ごしました。本当に様々なことを学ばせていただきました。そして、これから始まるのは「実践」です。発信し、実践していかなければ意味がありません。今、私ができることは、この研修の報告会や学年での発表会でみんなに呼びかけることです。そのことによって、食糧問題について、少しでも多くの人の意識が高まってくれることを期待しています。

また、外国のよい点を私たちの生活に取り込むのは非常に大切なことだと思います。ですが、度がすぎると日本の伝統が薄れてしまうのではないかとも思います。日本のよさも大切にしていかなければいけないと考えます。

私がこうしてたくさんの方のことを学び、貴重な体験をすることができたのもたくさんの方々に支えられていたからです。本当にありがとうございました。

いつかまた、オーストラリアに行ってお世話になった方々に英語で改めてお礼を言いたいです。

ありがとうございました！！！！

オーストラリアで学んだこと

NO. 3 大曲中学校 木村宣貴

I はじめに

今回のオーストラリア研修では、世界に対しての視野を広げる経験を少しでも積むことができるのではないかと、また、自分の英語が外国人にどれだけ通用するかを知りたいと思い、この研修に参加しました。

II テーマ設定の理由

現在大仙市では、節電節水を呼びかけるポスターが貼られていたり、また、冬休みの課題でもあったエコチャレンジにも取り組んだりしています。私を含めて大仙市民は日々の生活でそのようなことを心がけていますが、オーストラリアではどのような取組をしているのか、それを知るためにこのようなテーマにしました。

研究テーマ

「自然環境を維持していくための工夫には、どのようなものがあるか？」

III 研究結果

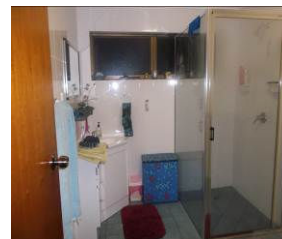
私はオーストラリアの自然環境の様子を知ることで、大仙市はどのようなことを学び、取り組んでいけばよいかを調べてみたいと思いました。到着してすぐのバスの中で現地ガイドさんが、「今日の宿泊先では、水道水が飲料水ではないので飲んだらお腹をこわしてしまいます。途中で全員分の飲料水を買ってきます。」と言いました。世界では、飲める水道水というのは珍しいのでしょうか。飲料水を購入しなければならないことから、オーストラリアでは水はとても貴重なものとわかります。

私がお世話になったファームステイ先のトイレには「田舎の排水溝は詰まりやすいため、トイレットペーパーの量を最小限にしてください。」と、紙が貼られていました。排水溝にあまり水が通っていないのでしょうか。さらに、浴室にはシャワーしかありませんでした。浴槽にお湯をためていたら、大事な水がなくなってしまいます。普段は2人暮らしだというホストファミリー宅では、私たち5人の他にも親戚の方たちが宿泊していたので、水の使用量が普段の数倍になったためか、私がシャワーを使っているとき、途中で水が止まってしまいました。このことから、オーストラリアでは**節水**が非常に大切なのだとわかります。

<オーストラリアの節水の取組>

先ほども書きましたが、オーストラリアでは飲料水はとても貴重なものです。ただ、私たちがファームステイしたマンガリーフォールズという場所は、雨がたくさん降る場

所なので、都会ほどは水に困っていないようです。それでも、ホストファミリーに「シャワーは5分まで」と、言われました。私も生活に支障が出ないように気をつけて水を使ったつもりでしたが、結局は水が止まってしまうことになり、今では反省しています。また、大量の水や洗剤を使わずにすむ食器洗い機を使うという工夫もしていました。このように、節水に関しては日本よりも意識して取り組んでいることがわかりました。オーストラリアの大半は乾燥帯で、干ばつに苦しむこともあり、水はとても貴重なのです。



<オーストラリアのゴミ事情>

ステイ先でのゴミ事情について印象に残ったことは次の五つです。

- 1 ゴミ箱はあまり見かけず、あったのはシャワー室の小さなゴミ箱とシンク下にある大きめのゴミ箱の二つだけでした。
- 2 野菜から出る葉や茎などのゴミはヤギの餌にしていました。
- 3 それ以外のゴミを分別する様子はあまり見かけませんでした。
- 4 シンク下の大きなゴミ箱には、生ゴミも入っているようでした。
- 5 古雑誌や古本などは冬までためておき、薪代わりにするそうです。

以上のことから、オーストラリアではゴミの分別は日本ほど細かくない印象でした。この点に関しては、オーストラリアでももう少しゴミの問題を意識していくことが大事なのではないかと感じました。

<まとめ>

これらのことからオーストラリアでは、日本よりも「節水」に対しての意識が高いということがわかります。しかし、ゴミの分別に関しては、日本人ほど意識が高くないと思いました。

現在地球上にはいろいろな環境問題があります。これらの問題を解決するためには一人一人が普段の生活を振り返っていく必要があります。そして、小さなことにも少しずつ取り組み、また、一人でも多くの人がそれに取り組んでいくことが環境をよくしていくことにつながると感じました。

また、「環境とは、全ての生き物につながっている」ということを植物園の係員の方から聞きました。環境を壊してしまうことは、すなわち、人間自身を滅ぼすことにつながるということです。そのようなことにならないように、常に環境のことを考えながら生活していきたいと感じます。

IV エピソード

(1)ファームステイ

①はじめに

私たち男子5人は Bob さん Carmel さんご夫妻のお宅にお世話になりました。Bob さん宅は右の写真のように平屋ですが、大きくて、敷地内にプールがありました。さらに広大な土地に牛やヤギ、鶏などを趣味で飼っていました。私たちは、Bob さん宅でヤギの餌やりの体験をしました。



②コミュニケーション

海外で英語を使うのは初めてで少し緊張もありましたが、車から降りるときにホストファミリーに対して初めてできる範囲の英語を使ってみました。（「May I close the door?」）すると、意外にも通じてしまいました。それを境に徐々にコミュニケーションをとることができ、Bob さんと私たちで UNO をしたときは会話がはずみました。とても面白かったです。

③食事

夕食では右の写真のようにワンプレートにメイン料理や野菜などを入れることが多いようです。食後にはマンゴーアイスを食べました。日本とは季節が逆のオーストラリアにはもってこいのデザートです。

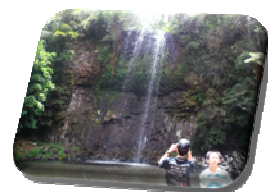


また、3日目の昼食には日本文化を紹介するためにそうめん・抹茶・味噌汁を作りました。抹茶・味噌汁はインスタントであまり出来がよくありませんでしたが、ホストファミリーはとても満足してくれました。特に抹茶は「いつも飲んでいる紅茶よりもおいしい」と言ってくれてうれしく、作った甲斐がありました。

④外出

ホストファミリーと、風車のある牧場へ行きました。そのあたりは物が吹き飛びそうなほど風の強い場所でした。風車は、私の想像よりはるかに大きくて迫力がありました。

次に行ったのは、ミラミラフォールズと呼ばれている滝です。ただし、私には水の量が少なく感じられました。有名な滝なのでいつもはもっと水が多いのでしょうか。



午後は、乳牛の牧場へ行きました。そこで、機械を使った乳搾りを体験することができました。ただ、牧場には牛の糞がたくさんあったため通るのも一苦勞でした。そして、子牛のところにも行ってみました。指を吸われるのを体験した人もいますが、私は遠慮しました。Bob さんから、生まれた子牛がメスなら生かしますが、オスは殺してしまうと聞きました。私は普段飲んでいる牛乳の重みを感じました。



(2)オージーキッズとの交流

オージーキッズとは、泥まみれになりながらもいろいろな競争をして楽しむことができました。オージーキッズと心をひとつにして競争できたのがうれしかったです。また、池の上をロープで降りていくアスレチックがありました。少し怖そうでしたが、1回やってみると意外にも面白かったです。オージーキッズの中には、ロープから浮き輪の穴に飛び降りるチャレンジをしている人や、2人同時に降りる人もいて、運動能力の高い人が多いと思いました。お別れパーティーではにぎやかな音楽のなか、オージーキッズと踊って楽しむことができました。

(3)グリーン島観光

快晴の青空の下、美しい海でシュノーケリングを体験しました。自分の目で数々の海の生き物を見ることができ、さらに目の前をウミガメが通ってすごく驚きました。あまりにも夢中になりすぎて、露出していた背中がひどい日焼けをしてしまいました。



(4)キュランダ観光

キュランダ鉄道に乗り、キュランダ村へ行きました。テレビ番組「世界の車窓から」で有名な観光列車から見る景色は、美しい滝や山の連続でした。キュランダ鉄道は百年以上も前に造られたと知り、驚きました



また、キュランダではアボリジニショーで踊りの鑑賞や道具の使い方の体験をしました。

V 海外派遣を終えて

私は、オーストラリア海外派遣事業に参加して本当によかったと思います。ホストファミリーの Bob さん Carmel さんや、教育委員会の高橋先生、日本旅行の飛田さん、そしてオーストラリア出身のレベッカ先生ありがとうございました。この経験から、将来海外で働くという可能性も考えることができました。いつか英語が流暢に話せるようになったら、またオーストラリアに行きたいと思います。本当にありがとうございました。

We had a good time.

I love Australia!

Australiaで学んだこと

派遣生番号No. 4 大曲中学校 小西 花菜

I はじめに

私は、小学生の頃から英語や海外の文化に興味がありました。ALTの先生の授業は月に1、2回でしたが、その中での交流やふれあいなどでどんどん英語が好きになりました。中学校に入学し、英語の授業が始まるとさらに英語や外国語への興味がわきました。この海外派遣事業のことを知ったのは、1年生の時でした。派遣の対象は2年生だったこともあり、すぐには参加できなかったのですが、その時から「来年は絶対に参加したい!」と思うようになりました。2年生になると、さらに英語が身近に感じられるようになり「海外で自分の英語を使ってみたい」、「本場の英語に体で触れたい」と思うようになりました。

オーストラリアについては、社会科の授業で学んだ程度で深くは知りませんでした。今回の研修を通して「自分の知識を広げたい」という思いもあり、応募しました。いざ海外派遣生になることが決まると、とても不安で緊張しましたが、楽しみでもありました。

研究テーマ「よい環境を保つにはどんな工夫ができるだろうか」

II テーマ設定の理由

日本だけではなく、世界の環境は地球温暖化やそれに伴う海面上昇などの様々な問題を抱えています。環境の違う土地で行われている運動を日本でも行えば、日本の環境がさらによくなるのではないかと私は考えました。また、オーストラリアでは水を大切にしている運動が行われています。それを日本で活用することはできないだろうか、と考え、このテーマを設定しました。

III 研究テーマとその研究方法

(1) 研究方法

- ① ホストファミリーへアンケートを行う。
- ② 日々の生活の中での水の利用方法を実際に体験する。

(2) 研究結果

① ホストファミリーへのアンケート

Q1 「What are you doing to keep good environment?」

(あなたはよい環境を守るためになにをしていますか?)

- A1 ・ Recycle 「リサイクル」 ・ Save water 「水を大切にする」
・ Use less plastic 「プラスチックを使わない」
・ Solar power and hot water 「ソーラーパワーを使う」

Q2 「What do you think about environmental pollution?」

(環境悪化についてどう思いますか?)

A2 Companies should not dump waste. Reduce pollution in the ocean.

Reduce activity that produces carbon.

(会社はゴミを無駄に捨てるべきではない、海への汚染を少なくする、炭素を放出する活動を少なくする。)

私はこのアンケート結果を見て、環境への意識が日本と似ているなと思いました。しかし、オーストラリアでのファームステイの中で、日本より環境への意識が高いなと感じるところがたくさんありました。その一つにゴミの処理があります。日本の一般家庭にはゴミ箱があり、その中に大抵のゴミを入れますが、オーストラリアでは、紙でできたゴミはすべて暖炉に入れ、部屋を暖めると同時に燃やしていました。プラスチックやペットボトル、リサイクルできる全ての物は食料庫の隅にまとめて保管し、リサイクルゴミとして出していました。その他は一般ゴミとしてまとめていました。また、水をとても大切にしていたのが印象的でした。

② 日々の生活の中での水の利用方法

日本では、水が限られた資源だと感じることはあまりないのですが、オーストラリアでは水がとても少なく、大切に使っていました。日本との違いを最も感じたところは「お風呂」です。日本ではお風呂の時間を制限されることはあまりありません。しかし、今回、ファームステイ先のファミリーからお風呂（シャワー）は5分までと言われとても驚きました。また、水道から出る水は飲めないので浄水器をつけているのですが、その水も少しずつ出していて、日本とは違うなと思いました。また、水の値段が日本と比べてとても高くて驚きました。炭酸飲料の方が水に比べて安いという、日本では考えられない状態でした。



IV 研究のまとめ

今回のファームステイでたくさんの日本の課題が見えてきました。大仙市の環境をよりよくするために私が考えたことは、

- ① もっと環境への意識を市民全体で高める
- ② リサイクルや資源の再利用についてわかりやすく説明する
- ③ 大仙市で取り組んでいるエコチャレンジや環境家族宣言などを継続する

ということです。この三つを実現するのはそれほど難しいことではないと思うのですが、大仙

市では、まだまだ完璧にできていないのが現状です。しかし、この三つのことをしっかり実践していくことによって、オーストラリアのようなすばらしい環境を保つことができると考えました。また、私自身がすることもたくさん見つかったので、自分から周りの人にオーストラリアの取組を伝え、環境をよくする活動を広げていきたいと思いました。

V たくさんの思い出

オーストラリアでは、普段の生活では体験できないことをたくさん体験することができました。

① ファームステイでの体験

事前学習会で家族の名前、家族構成、住所などは知っていましたが、言葉の通じない家族と何日も生活するのは不安でした。しかし、ホストファミリーの **Martin** さん一家が優しく出迎えてくれてうれしかったです。ファームステイの家に向かう道中は、日本と違い道が広く、対向車もないのでどんどんお父さんがスピードを出して、少し怖かったですですが楽しかったです。家に着き、最初に大きくて広い家だと感じました。お母さんと長男の **Aaron** は仕事で家にはいませんでしたが、次男の **Luke**、次女の **Melissa**、ホストファザーの **Len** さんがお昼ご飯にバーベキューをしてくれてうれしかったです。長女の **Sonja** さんは結婚して家を出たということで会えませんでした。とてもいい人だということが家族の話からわかりました。

2日目は家族と一緒に湖に行って泳ぎました。高いところからジャンプするのがその湖での楽しみ方だと教えてもらいましたが、少し怖かったです。オーストラリアの人はみなさん優しく、日本人だと分かるかと親しく話しかけてくれました。その後、大きなショッピングモールで買い物をした際に、やっぱり外国だなと感じることがありました。それは商品のサイズが全て大きい事と、カートが見たことがないくらい大きかったことです。テレビで見るような、全てが大きいショッピングモールは刺激的でした。

3日目はホストマザーとドライブに出かけました。オーストラリアの道路は、牧場にいる牛との距離が近くて驚きました。家に帰った後、私たちとホストファミリーでクッキーとマフィンをつくりました。分量が多くてまぜるのが大変でしたが、たくさんつくったクッキーの一部を日本へのお土産に持たせてもらいうれしかったです。その後、昼食に私たち派遣生でお好み焼きをつくりました。少し失敗してしまいましたが、ホストファミリーには好評でした。その日の夜に日本からもってきたお土産を渡しました。ホストファミリーは、日本が好きで日本の文化に関する知識が豊富でした。

最終日、朝ごはんを食べて集合場所のレインフォレストロッジに向かいました。ホストファミリーとお別れをするのはとても寂しかったです。ファームステイが楽しかったので、いつかオーストラリアに行って恩返しをしたいです。

② オージーキッズとの交流と土ボタル鑑賞

オージーキッズとの交流は、同年代の人が多くて楽しかったです。障害物競走は、日本では想像できないくらい激しくて、驚きました。夜には食堂に集まり、一緒にダンスをしました。私たち日本の10代は、恥ずかしがってあまり人前でダンスを踊ったりはしませんが、オージーキッズは楽しそうに踊っていて、私も最初は恥ずかしい気持ちがありました。が、どんどん楽しくなって一緒に踊りました。よい思い出になったので、またいつか彼らと再会したいです。



その後、派遣生だけで行った土ボタル鑑賞は、写真には残せませんでしたがとてもきれいでした。

③ グリーン島での体験

大きな遊覧船でグリーン島に向かい出発したとき、船着き場がどんどん遠くなっていく景色が印象的でした。また、海の美しさも強く胸に残りました。

島に着くと、まず、グループごとに分かれてアクティビティがはじまりました。私はシュノーケリングできれいな珊瑚礁を見ました。映画で見るように魚がとても近くできれいに見えて驚きました。その後の自由行動では友達とワニ園に行きました。日本では見られない大きなワニがたくさんいて、少し怖かったです。

④ 植物園での研修とヒルトンケアンズ

植物園には見たことのない植物や虫が展示されていました。その中でも特に印象に残っているのは、大きい松の木です。案内をしてくださった方の一番好きな木も松の木だそうで、とても迫力のある、歴史を感じさせてくれる松の木でした。

キャリア学習で訪れたヒルトンケアンズというホテルは、日本にもたくさん支店のある有名なホテルだということを知って驚きました。ホテルの裏側の仕事やスイートルームなどを見せてもらったのですが、広くて眺めがきれいだったのを覚えています。

⑤ キュランダでの観光

キュランダ鉄道に乗ってキュランダへ行きました。雑貨屋さんやお菓子屋さんに入りましたが、どこの店にも日本語を話せる人がいて驚きました。

その後、アボリジニのショーを見ました。社会科の教科書などで見たことはあったのですが、実物はとても迫力がありました。また、アボリジニのブーメラン投げを体験しましたが、全然上手くできませんでした。

アーミーダックという水陸両用車にも乗りました。地面を走っているときはがたがたして不安定でしたが、水に入ったら安定してきれいな景色を楽しみました。

最終日はケアンズ市内の散策もしました。夕食をグループごとに自由にとることになっていましたが、みんなで協力して楽しく過ごすことができました。

VI オーストラリアでの研修を終えて

今回の海外派遣事業のオーストラリア研修では、今まで体験したことがない様々な文化に触れることができました。そして、コミュニケーションの大切さと、言葉の壁を越えるのは簡単ではないけれど、努力次第で越えることができるということがわかりました。日本では親や友達、学校の先生などが私たちの面倒をみてくれたり、世話をしてくれたり、甘えられる環境です。しかし、全員が初対面のオーストラリアでは、自分で何もかもしなければなりません。また、言葉が通じない環境で困ったり迷ったりすることもありました。そのような経験から、今の自分がどれだけ恵まれているかということがわかりました。

また、この経験は日本でも生かせると思いました。日々の学校生活の中や地域での生活でも周囲に頼らず、何事も自分から進んでやる。そのことは、どこにいても同じだと思います。

今回体験したことを、確実に自分の将来に生かして行きます。そして、今回優しく迎え入れてくれたホストファミリーやオーストラリアの方たちに恩返しできるよう、もっとたくさん英語を勉強し、オーストラリアに限らず世界で活躍できる人になりたいです。



Australia Report

派遣生番号 No. 5 大曲中学校 佐藤 百花

I はじめに

私は幼い頃から外国や英語に興味があり、外国を紹介しているテレビ番組や本を見るのが好きでした。学校の授業で学んだ英語を生かして、たくさんの外国の人と英語で会話したかったので、今回の研修に参加したいと思いました。

また、生の英語に触れながら日本とは違う文化の生活を体験し、国際感覚を養い、視野を広げたいと思いました。

オーストラリアへ行くことが楽しみな気持ちが高まるなか、出発日が近づくにつれ不安な気持ちのほうが大きくなっていきましたが、実際はとても楽しい9日間でした。

〈研究テーマ〉 **豊かな自然や環境を守るためにはどうするべきか？**

II テーマ設定の理由

私は、固有種が多く豊かな大自然に恵まれているオーストラリアに興味をもちました。今回の研修で、オーストラリアではこのような大自然を守るためにどのような活動をしているのか、オーストラリアでの環境保護への取組について調べたいと思いました。

また、オーストラリアと日本での取組の違いを見つけて、これからの生活に役立てたいと考え、このテーマを設定しました。

III 研究結果

〈調べたこと〉

★ 環境保護への取組

私の家では、ペットボトル、食品トレイ、牛乳パックは分類して、買い物の時にスーパーのリサイクルBOXに持って行き、アルミ缶、スチール缶は中を洗って、プルタブを取り除いて小学校の回収BOXにそれぞれ分別して持って行きます。古紙や古新聞は指定日にまとめて回収に出すようにしています。



また、電気をこまめに消し、使わない時の洗濯機やパソコンなどのコンセントを抜くなど、身近にできることを行っています。

オーストラリアで、水は貴重な資源です。水道水は、場所によっては安全に飲むことができないので、飲料水は店で \$2.00~\$3.00 (約 192 円~288 円) ぐらいで売られています。私はこのようなオーストラリアの節水の取組について調べました。

ファームステイ 1 日目の午後のお茶の時間に、クッキーやパンケーキ、フルーツなどを食べさせてもらいました。その時、ホストマザーに「雨水を飲んでみる？」と聞かれました。私は雨水を飲むということに驚きましたが、試しに飲んでみました。後でホストマザーに聞いたら、飲料水は雨水をろ過して使うなど、「**雨水を利用して節水している**」ということが分かりました。また、ファームステイでは、**シャワーは 1 人 4 分以内**と決められていました。

日本での節水は「使っていない水が流しっぱなしだったら止める」程度で、使っている時間はあまり問題にされません。日本で生活している時は、シャワーを使っている時間など気にしたことはありませんでした。しかし、オーストラリアでは、節水に対する意識が高く、生活の中で日常的に取り組んでいることが分かりました。

☆自然保護

私がお世話になったファームステイ先では、酪農の仕事をしていました。環境保護の取組について質問してみました。

Q. How do you devise to defend environment?

(あなたは環境を守るために、どのような取組をしますか?)

A. We do not fertilize our pastures hence this does not affect the water table.

(わたしたちは**牧草地に肥料を使わない**ので、**水脈が汚染されません**。)

We have a balance of pasture and rainforest, our property is not totally cleared allowing wildlife habitats.

(わたしたちは**牧草地と熱帯雨林のバランスを保つ**よう、**自分たちの所有地が野生動物の生息環境を完全に壊さないようにちゃんと残してあります**。)

We have good drainage to avoid erosion.

(**水はけをよくして浸食を防いでいます**。)

We conserve our water as we rely solely on rain water.

(わたしたちは**雨水しか利用できないため節水**しています。)

ファームステイ先の牧場では、牧草地に肥料を使わないことで、水脈を汚染せずに牧草地と熱帯雨林のバランスを保っているそうです。また、野生動物の生息環境を残すようにして、



自分たちの牧草地を開拓していったそうです。水はけもよくすることで浸食を防ぐことができ、雨水しか利用できない地域のため、節水を心がけているそうです。

IV まとめ

今回の調査で、日本とオーストラリアの環境を保護するための取組の違いが分かりました。水の利用については、オーストラリアでは節水に対する意識が高く、日頃から節水に取り組んでいます。これを参考にし、これからは水を大切に生活していきたいです。

ファームステイ先（オーストラリア）では、酪農の仕事をしていたので、酪農に関連させながら環境保護に取り組んでいて、私の家（日本）では、身近なこと（リサイクルできるごみの分別、使用しない電気を消すなど）から取り組んでいます。

調査をとおして、自分が住んでいる自然や環境に合わせて、環境を守る取組を考えて実行していけばよいと思いました。

また、自分たちがこれまでに行ってきたことを続けながら、オーストラリアで取り組んでいることを参考にこれからできることを見つけて発信し、行動したいです。そして、豊かな環境や自然を守っていききたいと思います。

V たくさんの思い出と体験

☆ ファームステイ

ステイ先に向かう途中で、ホストマザーが、男子がステイしている家庭に遊びに連れて行ってくれました。そのお宅では、牛や豚、にわとりや山羊を飼っていました。このような動物は、近くで触れあうことができないので、とてもよい体験ができました。



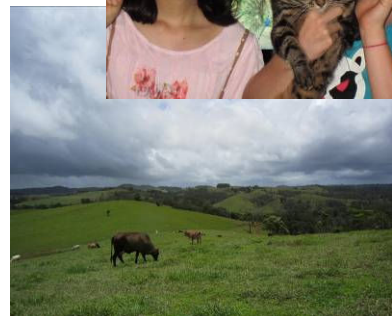
そして、私が4日間お世話になるファームステイ先で迎えてくれたのは、同い年のLaraちゃんと3匹の犬でした。私は犬が苦手な人で、車を降りたときに犬が「わんわん!」と吠え、私の後を追ってきたので驚きました。この家では犬のほかにも、猫が1匹、鳥が2羽、大きなハムスターが1匹、馬が1頭、何頭かの牛とにわ

とりを飼っていました。

マンガリーフォールズにある滝にも案内してもらいました。そこはたくさんの大きな植物や木々に囲まれていて、迫力がありました。自然が豊かで、真夏でありながら時々涼しい風が吹き、快適でした。

3日目には敷地内で登山をしました。山の中腹へ着くと、青空と緑が広がった美しい風景が目の前に広がりました。

4日間ホストファミリーにはたくさんお世話になりました。そして、楽しいことや新しい発見などたくさんの思い出をつくることができました。



☆ オージーキッズ

ファームステイが終わった後は、オージーキッズとの交流がありました。同年代の人と交流できるのが前から楽しみでした。

最初にいくつかのグループに分かれて、日本の文化を紹介して遊びました。私のグループでは、折り紙を折りました。簡単にできそうなものは一緒にやり、難しいものは作っているところを見せて、できた折り紙をプレゼントしました。

次に、オーストラリアの軍隊もトレーニングしているという野原で、2チームに分かれてゲームをしたり、筏を作りどちらが早く池を3往復できるか競い合いました。その後、みんなで夕食を食べ、一緒にオーストラリアのダンスを踊り、たくさんの人と交流して楽しい時間を過ごしました。



☆ グリーン島

グリーン島には船に乗って行きました。着いてから、グラスボトムボートに乗りました。グラスボトムボートは、床が窓のようになっており、魚が泳いでいる様子やサンゴ礁を見ることができます。

グリーン島を歩いて1周し、店でお土産も買いました。その後、14歳までは\$8.00(約768円)払えばワニや魚、アボリジニの展示物を見られるところへ行きました。さまざまなワニがいて驚きました。



☆ キュランダとケアンズ市内



熱帯雨林に囲まれた村、キュランダには鉄道で行きました。

昼食には、オーストラリアで有名なミートパイを食べました。私は、ビーフ、トマト、チーズが入っているミートパイを注文しました。温かくて、おいしかったです。

その後、コアラを抱いて写真を撮りました。コアラはふさふさしていて、とてもかわいかったです。

次に、オーストラリアの先住民アボリジニのショーを観たり、ブーメラン投げをしたりしました。間近で見ることでできたアボリジニのショーは、とても迫力がありました。ショーで使われている楽器も、狩りで使われる弓矢やブーメランも全て木製で、自然が豊かなオーストラリアらしいと思いました。



水陸両用車に乗り、自然探索をしながら、動植物の紹介もしてもらいました。

最終日はケアンズ市内での自由行動でした。街の店を見たり、お土産を買ったりしながら夕食を食べました。ケアンズ空港へ向かうころには、さすがに9日間の疲れがたまっていました。

VI 研修をふり返って

この研修を通して、オーストラリアの生活や文化を知り、たくさんの貴重な体験をすることができました。9日間という長期間、生の英語に触れながら、自分なりに英語で会話して、ホストファミリーや現地の人とコミュニケーションをとることができたのは、新鮮な感覚でした。日本では知ることのできない多くの事を学び、感動し、一生の宝物となるたくさんの思い出もつくることができました。

これから、英語をさらに勉強して、もっと上手くコミュニケーションをとれるようになったら、またオーストラリアはもちろんほかの国にも行ってみたいです。

今回の研修を通して、自然や環境を守るために自分にできる身近なこと（リサイクルできるごみの分別、使用しない電気を消すなど）にしっかり取り組もうという意識も高まりました。

この9日間の貴重な体験をこれからの生活にいかしていきたいと思います。

オーストラリア研修で学んだこと

No.6 大曲中学校 辻田 京香

I はじめに

私がオーストラリア研修に応募したのは、日本とオーストラリアの違いを直接肌で感じたかったことと、英語でうまくコミュニケーションがとれるかどうかチャレンジしてみたかったからです。

また、日ごろ関心をもっている健康について見聞を広め、今後の自分のライフスタイルを考えるきっかけにしたいと考えました。

出発する前、オーストラリアで生活するために必要な変圧器、ドライヤーなどの旅行用品や、ファームステイ先に持っていく折り紙、扇子、あやとりなどのお土産を準備していると、いよいよ行くんだという実感が湧いてきました。

また、自主研究テーマについて、ファームステイ先で調査する質問内容を英文でつくっていると、英語でうまくコミュニケーションがとれそうな気がしてきました。

オーストラリアの地理、習慣などについて勉強した事前学習会も、とても参考になり、小さな不安が大きな希望へと変わっていきました。

研究テーマ 「健康のためにはどんなライフスタイルが望ましいか」

II テーマ設定の理由

私は、将来、人の命に関わる職業に就きたいと思っています。そのためには、海外の進んだ技術や研究の成果を取り入れることが大切で、外国での事情を知り、学ばなければなりません。

今回の研修で、一般的にオーストラリアでは、健康を維持するためにどんな生活を送っているかを調査し、日本で望ましいライフスタイルを見つけ出し、自分の将来の夢を実現するための機会にしたいと考えました。

III 研究方法と研究結果

ファームステイ先のRoss(ロス)家で、食事、運動、リフレッシュ、健康について推奨されていることや風習について聞き取りをしました。また、オーストラリア滞在中に摂った食事についても調べました。

(1) 食事について

毎日、肉と野菜を食べているそうです。

写真1は、Ross(ロス)家の夕食で、牛肉のステーキとゆでたジャガイモ、とうもろこし、そして白菜とインスタント麺とをあえたものです。

あえものは、ドレッシングで味付けされていて、比較的薄味でした。

写真2は、レインフォレストロッジで食べた朝食です。ハッシュドポテトとベーコンハム、目玉焼きで、日本にもよくある朝食メニューでした。

(写真1)



(写真2)

写真3は、レストランで食べたランチです。レタスとホットチキン、チーズなどをパンではさんだバーガーで、栄養バランスが考えられていると感じました。

(写真3)



(写真4)

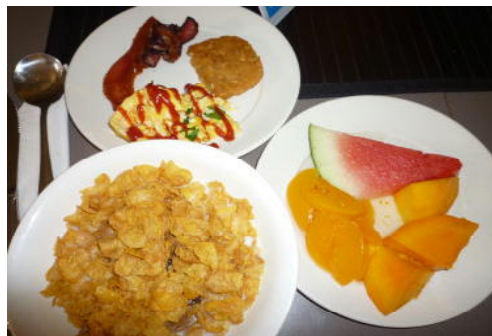


写真4は、宿泊したホテルの朝食ですが、マンゴーとスイカのフルーツが添えられています。ヘルシーな食事が推奨されているオーストラリアでは、新鮮なフルーツと野菜は特に推奨されているそうです。

次にオーストラリアの伝統的な食事を聞いたところ、ラム・チョップ、ポテト、コーン、にんじん、豆、ブロッコリーをワンプレートにしたものを時々食べるそうです。オーストラリアは移民が多い国なので、それぞれの伝統食がたくさんあると教えてくれました。

(2) 運動・リフレッシュについて

Ross(ロス)家では、水泳とウォーキングを毎日30分行っているそうです。また、家族の一員である犬と、毎日散歩をします。

(写真5)

どこまでも続く広大な自宅周辺の林の中を30分ほどかけて歩きます。(写真5)

また、家の中に何種類かの筋力トレーニングマシンがあったり、卓球台やビリヤード台があったりと、健康に対する意識の高さを感じられました。

どのようにリフレッシュしているかについて聞いてみると、ウォーキング、音楽鑑賞、キャンプと、日本でもよくある答えが返ってきました。



(3) 健康PR・健康に関する言い伝えや風習について

オーストラリアでは、体によい食事をする事、運動をすること、アルコールの飲み過ぎはいけないこと、禁煙などについてのPRが行われているそうです。

大仙市の広報などでも、健康のためには食事に気をつけることや、運動すること、禁煙などの呼びかけが行われていますが、最近、テレビでは「検診を受けよう」というコマーシャルをよく目にするようになりました。

健康に関する言い伝えでは、「An apple a day keeps the doctor away.」(1日1個のリンゴで医者いらず)ということわざを覚えてもらいました。

日本でも、「りんごが赤くなると医者が青くなる」と訳されて、私たちに馴染み深いものになっており、共通点が多くあることにびっくりしました。

以上のことから、私が見た健康に対するオーストラリアの印象をまとめると、
(1)肉類だけではなく、新鮮な野菜や果物を取り入れ、栄養を考えたバランスのよい食事を摂っている

- (2) 毎日適度な運動を欠かさず行っている
 - (3) 健康のためにさまざまなPR活動が行われている
- という3つの柱があることがわかりました。

日本でも、同じようなライフスタイルを目指したり、健康に関する取組が行われていて、オーストラリアと日本では大きな差がないこともわかりました。

また、帰国してから食べた味噌汁や納豆、醤油のような日本独自の食べ物は、とてもおいしく感じられました。オーストラリアの食文化のよさを学んだとともに、発酵食品など日本食のよさを再発見することができました。

IV エピソード

(1) ファームステイでの生活

ファームステイ先のRoss（ロス）家には、4日間お世話になりました。印象深かったのは、ケアンズ近郊の観光地に連れて行ってもらったことです。

「Crystal Caves」という博物館では、私の身長以上の2倍以上もあるアメジストを見ました。その他にも、中に水の入ったクリスタルや、魚やアンモナイトの化石なども展示されていました。（写真6）

また、「Curtain Fig Tree」という高さが50メートル、幅が39メートルの、樹齢500年以上になるいちじくの木に圧倒されました。（写真7）

左が（写真6）



右が（写真7）



家では、長男のダニエル君と一緒に日本のゲーム機「Wii」で遊びました。ゲームソフトもたくさん持っていて、その中の一つ、日本でもおなじみの「マリオカート」をやりました。ダニエル君はとても上手で強かったです。日本のゲームが、外国でも普通に使われていることに驚きました。

私のグループでは、持っていった折り紙でダニエル君家族と鶴・かぶと・紙風船などを作りましたが、お父さんが作った紙風船は、私たちが作った物よりもきれいに仕上がりました。

また、Ross（ロス）家では、犬や猫のほかに4羽の鳥、ハ虫類などを飼っています。（写真8）



とてもカラフルなインコを手にのせてもらいましたが、静かで、人なつこく、かしこい鳥でした。この鳥は「Hello」や自分の名前（「スパイキー」）をしゃべることができ、驚きました。（写真8）

また、長女のクリスタルさんが飼っているヘビの好物は、何とマウスの赤ちゃんだそうで、目の前で食べている姿を見たときは、ドキドキしてしまいました。

(2) オージーキッズとの交流

オージーキッズとはマンガリーフォールズで障害物リレーや、フォークダンス、ヒップホップ系のダンスなどをして交流しました。あまり会話を交わすことはできませんでしたが、一緒に同じ活動をする中で、お互いの距離がだんだん近づいていくのがわかりました。

(写真9)

特に楽しかったのは、池の中に向かってダイビングするアスレチックです。最初は怖かったのですが、勇気を出して1回目を飛んだら楽しくなり、3回もダイブに挑戦しました。

とてもエキサイティングな体験をすることができました。(写真9)



(3) グリーン島での思い出

ケアンズから船で1時間ほどの海に浮かぶ珊瑚の島、グリーン島。グレートバリア

(写真10)



リーフ国立海洋公園の中にあり、研修に行く前から楽しみにしていたところの一つでした。残念ながら船に酔ってしまいましたが、美しい砂浜と浅瀬が広がる海で水遊びをしたり、島の周囲を歩いて一周するころには、すっかり島の魅力にとりつかれていました。

マリンランドメラネシアには、ウミガメのプールとワニ園などがありました。

海底透視船に乗り、海の中をのぞくと、大きなウミガメや魚、きれいな珊瑚を見ることができ、世界自然遺産として地元の人たちに、愛され、守られている様子がよくわかりました。

V まとめ・・・海外研修を終えて

オーストラリア滞在中、食事、運動など健康について見聞きしたり、オージーキッズとの交流や、ケアンズの植物園、キュランダ村での自然ふれあい体験を通して、感じ、気付いたことがあります。それは、バランスのよい食事を摂り、適度な運動をしながらリフレッシュすることはもちろん大切ですが、人との交流の中で喜びを共有することや、自然の中で思う存分体を動かしたり、おいしい空気を吸ったりすることも、健康にとっては重要な意味をもっているということです。

今回の研修に参加し、健康について新たな考えかたをもつことができました。さらにオーストラリアでの生活を通して、私自身が心身ともに充実した日々を過ごすことができたと思います。

そういう意味で、オーストラリア研修に参加した意義は大きかったですし、自主研究テーマ「健康のためにはどんなライフスタイルが望ましいか」の答えの入口が少し見えた研修となりました。

最後に、オーストラリアに行く機会を与えてくださり、出発するまでの事前学習で応援して下さった皆さんに感謝します。

オーストラリア レポート

NO.7 大仙市立大曲西中学校

田口 智尋

1 はじめに

私は小学生の時に ALT の先生方と交流したことがきっかけで英語が大好きになりました。いつか外国の人と友達になりたい、自分の英語力を高めたいと思っていたので、今回の派遣事業をとっても楽しみにしていました。オーストラリアの素晴らしい文化や自然から多くを学んできたいと思いました。



2 研究テーマと調査

<テーマ>

よりよい生活をするための環境づくりとしてどんなことができるだろうか。～水を中心に～

<設定の理由>

中学校の環境学習で、私は、大沢郷地区にある小水力発電を見学しました。そこで作られた電気が公園内の街灯の電源になったり、災害時に利用されたりしていることを知りました。そして、地域の方々が大切に守ってきた湧き水が役立っていることに感心しました。このような体験から水に関わる環境づくりに興味をもち、このテーマを設定しました。

オーストラリアの環境を守る工夫を知り、秋田県と違うところを見つけ、これからの生活に役立たせたいと思いました。

<調査>

①ファームステイの家族に聞きました！

オーストラリアの水事情

オーストラリアは降水量が少なく、非常に乾燥しているため、水はとても貴重なものでした。また、私が滞在したファームでは、タンクに雨水を貯め、その水を電気(太陽エネルギー)によって温めるという方法でシャワーのお湯を作っていました。このため、お湯も日本のようにたっぷり使うことができません。このような水事情をすぐに理解できるように、ファームには注意書きがあり、節水・節電の協力を呼びかける言葉が、英語と日本語で書かれていました。

★節水の工夫★

- ・シャワーを使うときは1回5分以内、水洗トイレで流す水の量は半分にする。
- ・洗濯や食器洗いで大量の水を使わない。
 - *シンクは2つあり、片方が洗剤液。汚れた食器を漬けておき、落ちやすくなったら汚れを少量の水で洗い流す。
- ・雨水を各家庭で殺菌して飲み水にする。
- ・食器洗いや洗濯で使った水を野菜畑にまいて水を無駄にしない。
- ・牧草地を持ちすぎない。
 - *牧草地で使用する水は川からくみあげているため、川の存続自体が危ない状況だから。

★水害の対策★

- ・木々を伐採しすぎない。
- ・交差点の中継地点や車道の排水路を整備する。
- ・下水道を機能させるために、水の流れが一か所に集中しないよう整備している。
- ・水による浸食を防ぐために、ダムを作っている。

ケアンズがあるクインズランド州では、2011年サイクロンにより記録的な大洪水があった。水害を少なくするためにも、このような対策が必要！

～日本との違い～

- ・オーストラリア人にとって水は非常に大切なもの。
 - ・オーストラリアではシャワー時間を短くするなど日本より節水意識が高い。
 - ・水の無駄使いをしない工夫が各家庭にある。
- 「みんなが水についてよく知っている！みんなが水を大切に使っている！」

②バロン溪谷水力発電所

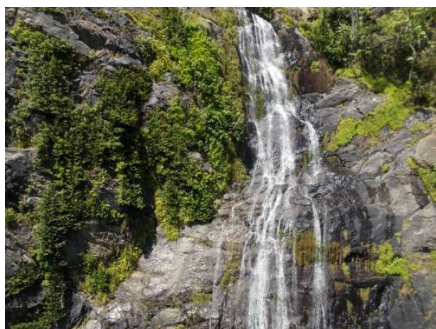
バロン溪谷水力発電所があるキュランダ村へは列車で行きました。
この発電所は、バロン川峡谷北側の山の岩を削って造られました。
1935年後半に電気の供給を開始し、クインズランドの電力網に年間60メガワットの再生可能なグリーン電力を供給しています。

～60メガワットはどれくらい???～

MW(メガワット)は 1000KW、つまり 1000000W のこと。

だから、60メガワットは6000000W となります。

年間 36000 世帯に電力を供給することができる!!!



バロン滝↑



キュランダ村行き列車↑

～考えたこと～

バロン溪谷水力発電所にある発電装置は、国立公園の景観保護のため地中にあり、残念ながら見ることができませんでした。この発電所が供給している電力は、ケアンズ市内の人たちにとって欠かせないものですが、年々、バロン滝の流量が少なくなっていて、今後が心配されているそうです。そのため人々の節電の意識も高いのだと思いました。

日本では今、原子力に代わる新エネルギーの開発が進められていますが、供給する側だけの問題ではなく、使う側の私たちも、電気を無駄にしないという意識を高める必要があると感じました。

3 エピソード<MILLAA MILLAA の滝>

ファームステイ先のお母さんとドライブを楽しみました。
3つのMILLAA MILLAAの滝に連れて行ってもらいました。

1、ミラミラフォールズ



2、ジルフォールズ



3、エインジアフォールズ



エインジアフォールズの木



豆知識 木のつるの巻き方

日本では時計回りに巻きつきますが、オーストラリアでは逆です。
北半球では排水の流れは右回り(時計まわり)です。
南半球では排水の流れは左回り(反時計まわり)です。
赤道の真上では排水の水の流れがなくそのまま真直ぐに流れます。
台風の渦巻きも同様に考えられるそうです。
これは地球の自転の影響だそうです。

感想

- ・MILLAA MILLAAは暑いところだったけれど、滝の近くはとても涼しく、心地よかった!!!
- ・オーストラリアの滝は迫力があり、圧倒された。

4 まとめ



～ファームステイを体験して～

私は、好き嫌いが多いため、食の面でいろいろ心配をしていましたが、ファームステイをしたおかげで食べられるものを増やすことができました。また、ご飯のおかわりを勧めるのがとても上手で、私は、たくさん食べることができました。日本とは違う食文化なので、最初は慣れないことばかりでしたが、そのような体験が、自分を豊かにしているのだと感じました。

会話をすることにも、はじめは戸惑いがありました。ファームステイ先のファミリーがとても優しく接してくださり、安心して過ごすことができました。ゲームもたくさんしました。言葉は伝わらなくても、ジェスチャーをしたり、笑ったりして、コミュニケーションをとることができました。

楽しい時間をファームステイ先のファミリーと過ごせし、一緒にグループだった3人の友達とも有意義な時間を共有できて嬉しかったです。

また、ファームの人たちは、みんな節水意識が高く、水を上手に使っていました。私がお世話になったファミリーだけではなく、どの家庭でも水の使い方にルールがあって、それをみんなでしっかり守っていたことに感じました。

～海外研修を終えて～

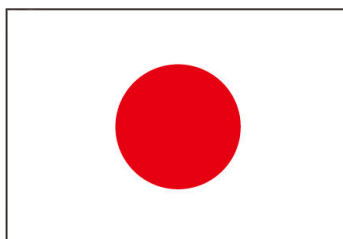
私にとって、初めての海外でした。言葉の面でかなり不安がありましたが、過ごしているうちに不安は安心に変わりました。

今回の体験で、私は成長することができました。それは、コミュニケーションの力です。例えば、聞き慣れない言葉だから、注意深く聞いたこと。また、目や表情を見て、相手の考えや伝えようとしている内容を理解したこと。そして、自分の考えを伝える努力をしたことです。私たちに会いに来てくれたオージーキッズや、ホストファミリーの娘さんとは、単語での会話が多かったのですが、身振り手振りを交えながら、仲良くなることができました。言葉が通じなくても、楽しい時間は共有できると実感しました。

オーストラリアでは、体験したことすべてが、新鮮でわくわくするものでした。

また、今回の海外研修を通して、環境問題に対する意識が、さらに高まりました。私も含め、湯水経験のない大仙市民は、オーストラリアの人たちに比べ節水意識が低いと思います。音と光と水の町、大仙市でも、水を有効利用するためにシャワーの時間を短縮するなど、水を多く使わない生活、水を無駄に使わない生活に取り組むことが必要だと思いました。オーストラリアの人々は水の上手な使い方をたくさん知っていて、勉強になりました。

オーストラリアで見たり、学んだことを、たくさんの人に伝えて、よきよき大仙市を目指したいと思います。



自然保護活動を充実させるためには？

～オーストラリアで学ぶ～

No. 8 大曲南中学校 佐々木明璃

1) はじめに

私は、学校でALTの先生とすれ違うとき、あいさつはしていたものの、聞き取りや、応答に自信がなく、会話するまではいきませんでした。でも、後期を迎えるにあたって、英語に力を入れようと考えた私は、ALTの先生ともっと積極的に話そうと決めました。いざ話しかけてみるとALTの先生が話していることが少し分かり、また、今までに英語の授業で習った単語をつなげて答えるとちゃんと伝わり、うれしく思いました。英語で話すことの楽しさが今まで以上に大きくなりました。

そこで私は「もっと海外の人とたくさんおしゃべりしてみたい」「私の英語はどこまで通用するのだろうか」と思い、今回の海外派遣事業に参加することにしました。

2) テーマ設定の理由

～研究テーマ～

環境保護活動をより充実させるためには、どうするべきか？

私の学校は、昨年、環境活動の取組が認められ環境大臣賞を受賞しました。そこで、県内、国内の環境活動の取組だけでなく、海外での取組を調べたいと思い、このテーマにしました。

3) 調べた内容

● E C O 活動の取組内容

☆ 節電について

オーストラリアのコンセントにはスイッチがありました。たださすだけで電気が流れる日本のものとは違い、プラグをさしてからスイッチをONにしないと電気が流れない仕組みでした。このコンセントだと、**さしっぱなしの電気の無駄**を防ぐことができるのでとてもエコだな、と思いました。

また、ファームステイ先で夕食のとき「あれ、暗いな」と感じ、よく見ると、テーブルの上の電灯しかついていませんでした。夜の自由時間もそれぞれの部屋にいるのではなく、一つの部屋で家族全員でテレビを見ていました。**電気を節約**でき、尚かつ、**家族のコミュニケーション**が



▲滝で遊んで Cool down!!

図られるので、日本も見習うべきだと思いました。トイレは吹き抜けになっていて、日光が直接入ってくるようになっていました。

☆ 節水について

オーストラリアの人々が、毎日お風呂に入らない事に、私は驚きました。それほど水を大切にしているのです。毎日お風呂に入ることが当たり前だと思っている私たちですが、もっと水の大切さを考えるべきだと思いました。

● ホストマザーに質問！！

ホストマザーに環境についての質問をしました。



Q 1 : **What are you doing to protect environment ?**

(あなたは環境を守るために何をしていますか?)

Answer : **We use solar for hot water and power . We try to use less plastic .**

We recycle plastic , glass and cans .

(太陽光を使ってお湯を沸かしたり、発電したりしています。)

プラスチックは使わないようにしています。

プラスチック、びん、缶はリサイクルしています。)

Q 2 : **What do you think about the environment now ?**

(あなたは今の環境についてどう思いますか?)

Answer : **Everyone needs to be careful so that future generations can enjoy it .**

The penalties for environmental are not strict enough . So for big companies it is cheaper to pay a fine than be "green" .

Sometimes it costs more for families and people to be "green" so they may not do it .

Everybody needs to take action now to keep our environment beautiful .

(次の世代が楽しめるような環境であるように、気をつける意識がみんなに必要です。環境についての罰則があまり厳しくないなので、環境に配慮するより、罰金を払った方が安いと考える企業が多いです。よりコストが高くなることもあり、エコ活動をしないう家族や人々もいるかもしれません。でも、美しい環境を保つためには、みんなが今行動を起こすことが必要です。)

Q 3 : **What do you think the environment will be like in one hundred years?**

(あなたは100年後の地球環境はどうなっていると思いますか?)

Answer : **A large increase in the earth's population will decrease the amount of non renewable resources .**

People are greedy, want more possessions and are not really prepared

to make sacrifices now for the future .

(人口が大幅に増加し、再生不可能な資源の量は少なくなっているでしょう。人々は欲張りでさらに多くの物を手に入れたがり、今犠牲を払ってまでも未来のための準備はしていません。)

質問の3番では学校で行ったアンケートと同じ質問をしてみました。学校では「良くなっている」と答えた生徒が多いのですが、ホストマザーは、「今の暮らし方次第」とやや厳しい見方をしているのが分かりました。

アンケートをしてみて、共感できるところが多かったです。

●まとめ

オーストラリアは緑がたくさんある国でした。それは、オーストラリアの人々の環境保護への意識が高いからではないかと思いました。私たち日本人は、「環境を守らなければいけない」と分かってはいるものの、実行がともなっていないと思います。でもオーストラリアの人々は考え、行動に移し、しっかり実践しています。自然とふれあい、自然の中で遊んだり活動したりすることがとても幸せだと感じているようでした。そこが日本とオーストラリアの違いだということが滞在してみて分かりました。

これから環境保護活動を充実させていくためには、たくさんの人に環境の事を知ってもらふ必要があると思います。自然が豊かであることのメリット、また、自然がなくなる事のデメリットをより具体的に知り、行動にうつしていけるような学習会やイベントがたくさん催されるとよいのではないのでしょうか。また、保育園や幼稚園の小さい子どものうちから自然の中で遊ぶ体験が、よりたくさん持てるように、環境を整えるとよいのではないかとも思いました。

将来、環境保護の大切さを多くの人に伝えられる専門的な知識と、実践できる行動力を身に付けられるよう努めていきたいと思います。

4) エピソード

～ファームステイ～

私は、**Martin (マーティン)** ファミリーの家に泊まりました。

☆家族構成☆

父… Len	長男… Aaron
母… Karen	次女… Melissa
長女… Sonja	次男… Luke

(自立したため別居中)



▲ Luke スマイル!

家族のみんながたくさん話しかけてくれたので、不安や緊張はすっかり消えていました。また、みんなが優しくおもしろい人たちで、たくさん笑わせてくれたり、私が話しかけたときもしっかり聞いてくれたりしました。**Karen** が作ってくれた料理はおいしくて、自分でも作ってみたいなあと感じました。**Luke** はフレンドリーで、おもちゃの銃で銃撃戦もしました。とてもはしゃいでいました。**Luke** の笑顔はかわいかったです！**Melissa** は私たちと同じ年とは思えないほど大人で、**Luke** がいたずらをしてもしっかりと受けとめ、ユーモアたっぷりで笑いにかえてくれました。

敷地がとても広く、日本では考えられないほど庭が大きかったです。庭では、クリケットをやったり、犬と遊んだりしました。クリケットとはオーストラリアで人気のスポーツで野球に少し似ています。のびのびと体を動かしました。犬の名前はラッフィーで、走るのが速くて、ボールを投げて遊びました。**Aaron** は投げるのが上手くてラッフィーとの相性抜群でした。



2日目には湖に連れて行ってもらいました。高いところから飛びこみ、スリル満点でした。その後、スーパーマーケットに行きました。たくさんの商品を見て回り楽しみました。

◀ Luke と Melissa があやとり中 ...

日本文化紹介では、箸やあやとり、折り紙などをプレゼントしました。興味をもって、遊んでくれました。あやとりは、**Luke** が上手くて逆に私たちが教えられました。

家の手伝いとして、芝刈りをしました。芝刈り機に初めて乗りました。また、大雨の時に水が敷地内に入ってこないように、わらをブロック状に固めたものを積み上げる手伝いもしました。わらなのに重くて大変でした。



温かい家族に迎え入れてもらえて最高でした！！！！

Martin family, thank you very much !! I love you !! ▲ Luke と Aaron

～オージーキッズとの交流～

2グループに分かれて障害物競走をしました。日本の運動会の障害物競走のようなものではなく、もっとハードでした。でも、オージーキッズと協力し、楽しみながらゴールすることができました。裸足で思いっきり走ることができて気持ちよかったです。



夕食後、日本の歌を披露した後、みんなでダンスを踊りました。日本の踊りとは違うアップテンポの曲を楽しく踊りました。国籍が違う者同士だったけれど一つになった気がしました。

～土ボタル鑑賞～

土ボタルが放つ光はとてもきれいで、未来に残したい光景だと思いました。

～グリーン島～

海の色がエメラルドグリーンで、その美しさに感動しました。私は、シュノーケリングをしました。大きな貝やさかな、海洋生物もきれいで、自然の豊かさを満喫しました。



▲ グリーン島に到着！

～植物園～

熱帯雨林の植物を見ました。背の高い植物ばかりで、屋根のようでした。触っただけで体に毒が入ってしまう植物は怖いと思いました。でも、先住民アボリジニは危険がすぐ近くにある中で生活していたことが分かり、知恵を出し合って生活していたんだなと思いました。

～キュランダ～

キュランダへ向かうときに、テレビ番組“世界の車窓から”に使われた風景を見ることができました。緑が多いのどかな風景でした。

キュランダ村では、店がたくさんあり、ショッピングを楽しみました。いくつかの店に日本人の店員さんがいて、たくさんおしゃべりもしました。



▲ 「世界の車窓から」と同じ風景

アボリジニショーは、迫力があっておもしろく、いろいろな感情をダンスで表現しているところも分かりやすかったです。



◀ アボリジニショー

～自由行動～

キュランダからケアンズに帰ってきたあと長時間の自由行動がありました。前日に見て回れなかった店を回りました。オーストラリアならではのかわいい商品がたくさんあり、おみやげも買いました。また、前日時間がなく食べるのを諦めたピザ屋さんに行くことができました！！注文をするときに、大きさ、チーズの量などのオーダーにチャレンジしてみました。店員さんはちゃんと理解してくれました。応答の時はゆっくり話してくれたおかげで聞き取ることができました。ピザはチーズが多くホカホカでおいしかったです。食べながら眺める海もきれいでした。

でも、オーストラリア生活が今日で最後だと考えると悲しい気持ちになりました。

計画的で充実した自由行動でした！！

5) 海外研修を終えて

オーストラリアに滞在して得るものがたくさんありました。季節も正反対の行ったこともない異国へと、親元を離れて踏み出すことに期待もありましたが、初めは不安が大半でした。ですが、帰ってきた今は、あのとき勇気を出して申し込んでよかったと思っています。

一番心配だったファームステイでは、自分の話した英語が相手に伝わる喜びを味わうことができました。住んでいる環境が違っていても**“相手に伝えようとする気持ち”**があれば、相手に通じることも分かりました。ホストファミリーの皆さんと過ごした3日間は一生の宝物になりました。

オーストラリアに滞在しているうちに**“自然で遊ぶ”**ことの大切さ、楽しさもよくわかりました。



▲道に植えた植物

オーストラリアにはくねくねした道が多いことに気づきました。なぜそうなっているのかというと道の真ん中に植物を植えているからです。日本では、**“道路をつくるために木を切る”**という考え方ですが、オーストラリアでは、**“木を守るために道を曲げる”**という感じでした。オーストラリアの人々の環境に対する意識が高いことが分かりました。

また、オーストラリアでは、老若

男女問わず自然の中で遊んでいました。家でゲームをするのではなく、自然とふれあいながら遊ぶことが自然保護の意識を高めることに繋がるのではないかと思います。“自然保護意識が高まる→自然を守る→自然と触れ合う場所が増える→自然で遊ぶ→自然保護意識が高まる……” オーストラリアではこの人と自然の関わり方がうまく循環しているのだと思います。

今回、海外研修に参加してたくさんの素晴らしい経験をする事ができました。この経験を忘れずに、大好きになった英語にもっと力を入れ、また、普段の生活では身近なエコから取り組みたいと思います。たくさんの人に“大仙市の環境って素晴らしいな”と思われるような環境を目指して、今回の経験を生かしながら環境保護活動に取り組みたいと思います。

最後に、素晴らしい経験をさせてくださった、大仙市教育委員会の皆様、支えてくれた先生方、家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました！！



▲ 滝で遊ぶ人たち

研修テーマ

「1人1人が環境保護への意識をもち、自然を守っていくにはどうすべきか？」

No.9 大仙市立平和中学校 鈴木 理彩

1 研修参加の動機

私は外国への興味があり、また、幼いときから外国の人と接する機会がありました。しかし、どれだけ外国の人と話す機会があっても、自分の力で相手に自分の気持ちを伝えることができず、周りの人に頼ってばかりでした。しだいに「自分の力で外国の人に自分の気持ちを伝えたい、そして相手の気持ちを理解したい」と思うようになり、今回の研修はとてもよいチャンスだと思い、参加しました。

2 研修テーマについて

最近、テレビや本で地球温暖化や大気汚染、森林破壊など、環境問題に関することを見たり聞いたりすることが多くあります。私たちの生活が豊かになり、便利になった一方で、私たち人間のせいで、多くの植物や動物が命を失っていき、私たちの未来にも影響を及ぼす可能性があります。そんな中、環境を守り、よりよい未来を創っていくために私たちができることはないのか、と考えるようになりました。

確かに分別のしやすいゴミ箱を設置したり、節電を促すコマーシャルを放送したりと、国や市町村でも環境保護のための活動を進めてはいますが、一人一人の意識というものはまだ低いのではないのかと思います。今回の研修にあたり、オーストラリアの人々は環境を守るためにどのような活動をして、自然とどのように関わっているのかを知り、それを今後の生活や私たちが創る未来に生かしていきたいと思い、このような研修テーマにしました。

3 訪問先でのこと

(1) 環境を意識したステイ先での取り組み

① ファームステイ先のマーティン家で生活する中でまず驚いたことは、「ゴミ箱が見当たらない！」ということでした。食事のあとの片付けの時、ゴミをどこに捨てればよいのか分からずにいると、ホストファミリーが暖炉の中に捨てると教えてくれました。紙類のゴミは暖炉の中に捨て、冬に家を暖めるために利用するそうです。日本では、「ゴミが出ればゴミ箱へ！」が普通なので驚きました。紙以外のゴミは町のゴミ回収に出すそうです。また、ペットボトルは日本と同じようにリサイクルするとホストファザーのレンが教えてくれました。日本と同じように、「分別」の活動が行われていると思いました。

② マーティン家では、必要最小限の電気しか使用していませんでした。「夏なので暑いのは？」と思っていましたが、家の周りは木がたくさんあって涼しく、夜でも必要な電気しか使用しないなど、日本よりも「節電」ができていたと思いました。マーティン家の生活は、地球に優しく、とてもよい生活だと思いました。

③ オーストラリアでは水が貴重なため、ファームステイ先でもシャワーの使用できる時間が限られていました。水の豊かな日本と違い、限られた資源を大切に使用していたので、日本も見習うべきだと思いました。

④ ホストマザーのカレンと買い物に行き、会計をしているところを見ていると、ほとんどのお客さんがマイバッグを持っていました。日本でもマイバッグを利用している人はいますが、オーストラリアの人たちの方が、利用率が高い

ように見えました。日本でももっとマイバッグの利用を呼びかければよいと思いました。

(2) ステイ先での体験

① ファームステイ先では、家の横に野菜を育てているスペースがありました。また、家の裏にある庭で子どもたちとよく遊びました。クリケットをしたり、マーティン家で飼っている犬と自然の中で遊んだり、とても楽しかったです。また、日本ではなかなか経験できないこともできました。芝刈り機で庭の芝を刈ったり、夜に敷地内でかくれんぼをしたりしました。



マーティン家の庭にて

② 夜空の星も私が住んでいるところと比べものにならないくらい綺麗でした。空気が澄んでいて、自然が豊かでないと見られないものだと思います。また、虫の鳴き声もたくさん聞こえ、私が住んでいるところよりも多くの生き物が生きられる環境なんだと思いました。



風力発電の様子

③ ファームステイ3日目には、風車がたくさんあり、牛が数えきれないくらいいる場所へ行きました。火力発電や原子力発電の代替エネルギーとも言われる風力発電を近くで見られて良かったです。秋田でも風力発電の取り組みを行っていますが、どんどん増やしていければいいのではと考えました。

(3) 現地学生との交流

ファームステイが終わり、ロッジに戻った日、現地学生とロッジの近くで交流をしました。障害物競走やいかだ作り、ウォータースライダーなど、自然と思いきり触れ合いました。現地学生は裸足の人が多かったので、私も障害物競走の途中で裸足になって楽しみました。

(4) 美しかったグリーン島



グリーン島のきれいな水辺

① 研修6日目には、珊瑚礁があるグリーン島に行きました。グリーン島に着いて船から降りると、海の綺麗なことに驚きました。日本の海はゴミがあつて、汚いイメージがありますが、グリーン島の海はゴミがなく、とても青かったです。泳いでみると魚やウミガメを見ることができ、感動しました。

② グリーン島には、分別ができるようにゴミの種類ごとに分けられたゴミ箱がありました。グリーン島の美しい自然を守り続けるには、そのような工夫や努力が必要不可欠だと思います。このような取り組みは日本でも行っていますが、きちんとゴミを捨てている人は少ないよ

うです。もっと意識を高めていかなければならないと思いました。



分別されているグリーン島のゴミ箱

(5) 植物園で学んだこと

海外研修7日目に、ケアンズにある植物園に行きました。植物園ではピーターさんという方に、自然のことについて、将来役に立つことを教えてもらいました。その中で、特に印象に残っていることは、「生命のサイクル」についてです。私はこれまで、「虫って厄介だなあ」という考えをもっていました。しかし、ピーターさんのお話を聞いて、考え方が変わりました。ピーターさんは、「一つの虫や植物がなくなると、いろんな種類の、たくさんの虫や植物がいなくなってしまうから、何一つなくなっってはいけない。」と話していました。虫や植物がどんどん絶滅していくと、その虫や植物を必要とする動物も絶滅してしまい、その動物を必要とする人間にまで影響が出ます。虫や植物、動物の「生命のサイクル」を大切に、その考え方を広めていきたいと思いました。

また、ピーターさんは、「自分の誕生日に毎年一本ずつ木を植えていくだけでもいい。」と話していました。私はそのお話を聞いて、「なるほど！そのとおりだな。」と思いました。このように行動を起こしていけば、緑が増えて自然が豊かになるし、周りの人もその真似をして、活動する人がどんどん増えてくると思います。何かを考え、行動に移すことができる唯一の生き物である

私たち人間が行動していくべきだと思いました。

4 エピソード

ファームステイ先では、日本の昔ながらの遊びを紹介しました。「あやとり」はステイ先の子どもたちのほうが上手で驚きました。



マーティン家での「あやとり」の様子

また、自分たちでホストファミリーに「お好み焼き」を作ったり、ホストマザーのカレンと一緒にクッキーとケーキを作ったりしました。とても楽しく、よい経験ができました。



できあがった「お好み焼き」

5 まとめ

ホストファミリーとの交流から 考えたこと

片言の英語とジェスチャーで相手とコミュニケーションをとるのは難しいことでしたが、相手に自分の気持ちが伝わったときの嬉しさや、コミュニケーションをとることの楽しさと大切

さを知ることができました。また、相手が私の伝えようとしていることを一生懸命理解しようとしてくれたことも嬉しかったです。短い間でしたが、たくさんのことを私に教えてくれました。最終日は、別れるのが本当に嫌でした。相手に自分の気持ちを伝えること、相手の気持ちを理解することは、とても重要で、そこから得られることはたくさんあるということも分かりました。

オーストラリア人の環境保護への意識から考えたこと

オーストラリアは日本よりもずっと、一人一人の環境保護への意識が高いと感じました。自然と共に生きる姿や、虫や植物、動物を大切にする姿勢は、私たちも学ばなければならないと思います。限りある資源を大切にしながら生きるオーストラリアの人々の生活からたくさんことを学ぶことができました。また、ピーターさんが言った、「虫や植物、動物の生命のサイクル」は心に残りました。

私たちのふるさと秋田には自然が豊富にあります。しかし、ただ黙っていれば自然が残るわけではなく、オーストラリアの人たちのように守っていかなければならないと思いました。その意識を高めて、何か行動に移していかなければならないと感じました。

今後に向けて



この自然をいつまでも…

今回の海外研修で得たことを、これからいろ

いろな場面で生かしていきたいと思います。海外研修に行ったことで、自分の考え方も変わり、成長できたと思います。日本で学んだ英語がとても役に立ったので、これからも英語を学び、たくさんの人と交流していきたいです。また、環境保護についても思っていた以上に考える機会が多くありました。考え、学んだことを忘れずに、よりよい未来を創れるように頑張っていこうと思います。

今回の海外研修に参加し、日本の生活では体験できないことを体験でき、たくさんことを得られたので、本当によかったと思います。

支えてくれた多くの人に感謝したいと思います。

Australia見聞録



派遣番号No. 10 大仙市立西仙北中学校 2年 阿部 倫己

I はじめに

私は小学5年生のときに大韓民国の晋州（チンジュ）に2週間、中学1年生のときにアメリカ合衆国のコロラド州に1か月間ホームステイをしました。外国の文化を学ぶとともに外国語でコミュニケーションすることも学ぶことができました。オーストラリアのことは、社会科の授業で自然環境や産業の特色についてたくさんの知識を得ることができました。私が驚いたことは、オーストラリアは歴史的にはヨーロッパ州と結びつきが強いのに、現在はアジア州との結びつきを強めているということです。



アメリカでのホストファミリーと共に・・・

日本は貿易の面でもオーストラリアと関係の深い国です。これまでのホームステイの経験を生かすとともに、日本の真南に位置し、日本との関係をより深めているオーストラリアの魅力を実感したいと思い、この海外研修に参加しました。

II 研究テーマ設定の理由

日本には世界に誇るすばらしい自然や文化がたくさんあります。その一つが「世界遺産」です。社会科の授業などで世界遺産について文献資料や映像資料で学ぶ機会がありました。また、日本の平泉やアメリカ合衆国のグランドキャニオンなど、実際に訪れ、そのすばらしさを自分の目で見ることもできました。

オーストラリアにも世界遺産がたくさんあります。なかでも自然遺産は世界的にも有名です。そこで、研究テーマを「オーストラリアでは、世界遺産を保護していくために、どのような工夫をしているのだろうか？」と設定し、世界遺産を保護するための人々の取り組みに注目しながら調査することにしました。

III 調べた内容と結果

1 管理側の工夫・・・豊かな自然を守るためのさまざまな「規則」

今回のオーストラリア研修では、ユネスコの世界遺産に登録されている自然遺産に行くことができました。訪れたどの場所にも「規則」というものがありました。

最初にオーストラリアに着いて宿泊したマンガリーフォールズ。ここには、滝があったり数千種類の植物が生い茂っていたりと、熱帯雨林の中でキャンプをしているような気分になりました。夜になると森の奥に生息している土ボタルを観賞することもできました。この自然豊かな熱帯雨林の森も規則がなければ保つことができません。ここでの規則は大きく分けて二つありました。

その1 生態系を守るための規則・・・「興味本位で餌を与えない」

私たち人間は、珍しい動物などを見ると、ついつい餌をあげたくなります。日本の動物園などに行くとそうした光景を見ることがあります。熱帯雨林に生息している動物は、熱帯雨林の中で餌をとって食べているので、人間がいろいろな食べ物を餌として与えてしまうと、それが原因で死んでしまう可能性もあります。さらに、その死んでしまった動物の影響で、生きることができたはずの動物も死んでしまうかもしれません。一つのことが連鎖的につながっていくのです。

その2 人間と動植物とが共生するための規則・・・「光・音、そして触らない」

熱帯雨林は、人工的に作ったものではありません。そのため、人体に害のある動植物もたくさんあります。また、森の奥に生息している土ボタルは、世界の2か所でしか見ることができない大変貴重な生き物であるため、厳重に保護をしています。土ボタルは、とてもデリケートな生き物で、光をあてたり、大きな音を立てたり触るだけで死んでしまうそうです。絶滅の可能性もある貴重な生き物なのです。美しい自然を保つために、土ボタルがいつまでも神秘的に輝き続けるために、そして人間と動植物がこの地球で共に生きていくために必要な規則なのです。

6日目に訪れたグレートバリアリーフ。グレートバリアリーフには、世界でも有数の巨大なサンゴ礁があり、シュノーケリングなどのアクティビティを体験することができます。この美しい自然を守るためには、熱帯雨林と同じ規則に加え、グレートバリアリーフ特有の規則がありました。

その3 美しい海を守るために・・・「サンゴ礁の上に立ってはいけない」

エメラルドグリーンで、色鮮やかな魚が泳ぎ、美しいサンゴ礁が海中に見えると、ついついサンゴ礁の上に立ってしまいがちになります。しかし、サンゴ礁の上に人間が立つとサンゴは死んでしまい、環境問題にも発展します。この取り組みは日本では沖縄でも活用できるのではないかと思います。

2 人々の取り組み・・・豊かな自然を守るための努力

最初の3日間はファームステイをしました。その時、家に向かう途中で気になったことがありました。それは「街中にゴミ箱が多い」ということです。大仙市には、さまざまな公共施設やコンビニエンスストア等の前にはありますが、それとは比べものにならないくらいの数のゴミ箱がありました。これは、「美しい自然をみんなの手で守りたい」という地元の人々の心の表れだと感じました。



街中に数多くあるゴミ箱

日本にも白神山地や屋久島、知床、小笠原諸島など世界遺産に登録された自然遺産

があります。以前、テレビで「富士山が世界遺産に登録できないのはゴミが多いことも大きな原因である」と聞いたことがあります。ユネスコの方が富士山を訪れ、そのゴミの多さにビックリしたそうです。同じことが、秋田県の白神山地でも問題になったことがありました。中学1年生のときに訪れたアメリカ合衆国のグランドキャニオンでは、コロラド川に立ち入る場合は、携帯トイレの持参が義務付けられていることを思い出しました。それくらい、自然を守るために地元の人々は努力しているのです。

3 オーストラリアの世界遺産を保護する取り組みから学んだこと、感じたこと

世界遺産は「人類共通の宝」となるものです。日本にも4つの自然遺産と12の文化遺産があります。そのすべてを訪れるのが私の夢です。オーストラリアで感じたように、世界遺産は、その国や地元の人々が大変な努力をして保存・保護しています。世界遺産を訪問する際には、何千年・何万年かけて作り出されたかけがえないものだという感覚をもって接し、大事に守り伝えていくことが必要だと思いました。また、こうした世界遺産を保護するために必要な「自然、そして人に優しい心」というのは、日常生活のなかでもとても大切だと思います。将来、世界遺産を訪れて感じたことを自分の言葉で世界中の人に伝えていけるような人になっていきたいと思いました。



マンガリーにて

IV メモリアル

今回の海外研修で楽しみにしていたことの一つにファームステイがあります。これまで、大韓民国やアメリカ合衆国でホームステイをすることのおもしろさを知っていたので、とても楽しみでした。そこで、ホストファミリーとの思い出を紹介します。

私がファームステイしたところは、山奥にある広くて大きな家でした。陽気な Hostfather の Bob と優しくて料理が上手な Hostmother の Carmel の2人と楽しい時間を過ごすことができました。また、私は Bob のことを“Dad”，Carmel のことを“Mom”と呼び、3日間、家族同様の生活を送ることができました。

メモリアルその1・・・ホストファミリーへのお土産

ホストファミリーへのお土産を何にしようか、いろいろ迷いましたが、日本の文化を紹介できるものがないと思い、箸と扇子、日本の風景のカレンダーを持って行きました。ホストファミリーは、日本の文化にとっても関心があり、お土産をととても喜んでくれました。特にカレンダーは、すぐに部屋に飾ってくれたのでうれしかったです。



ホストファミリーへのお土産

メモリアルその2・・・子牛とも交流

ファームステイ2日目。私は牛の乳搾りを見に行きました。乳搾りは手で行うのではなく、大型の機械を使っていました。牛舎には50頭をこえる牛がいて、子牛がとてもかわいかったです。その子牛を見ていると、Dadが私に「子牛の口に入れてみたら？」と言いました。戸惑いながらも実際にやってみると、子牛の口には歯がなくて、気持ちよかったです。



子牛の口の中に手を入れると・・・

メモリアルその3・・・日本の食文化を紹介

ファームステイ3日目。ホストファミリーへ感謝の気持ちを伝えるために、日本の料理を作ってごちそうしました。作った料理は“そうめん”と“みそ汁”，そして“抹茶”。料理の材料は、日本から持っていきましたが、調理する道具が日本とは違い、大変でした。しかも、予想していたよりも多くの方がホストファミリーの家だったので、盛りつけする量なども工夫しました。喜んでくれるかどうか不安でしたが、笑顔でおいしそうに食べてくれたので、うれしかったです。特に抹茶は、紅茶よりもおいしいと言ってくれました。



“そうめん”を作りました

V 海外研修を終えて

驚き、発見、喜び。たくさんのことを感じることができた9日間でした。言語も文化も異なる場で生活して、気持ちが通じなかったり、相手の言いたいことが理解できなかったりして苦労したこともありましたが、自分なりに精一杯工夫しながら英語でコミュニケーションをとることができました。そのおかげで、少しは英語力がアップしたのかな？と思います。また、これからもっと英語を勉強したいという気持ちになりました。

韓国，アメリカ合衆国，そしてオーストラリアと，この4年間のうちに3か国でホームステイをすることができました。それぞれの国の文化は，どれもすばらしいものだと実感しました。そして，海外で生活することで，日本の文化のよさにも気付くことができました。

今回の海外研修での一番の収穫。それは、「大仙市の西仙北中学校で勉強している自分」から「世界の中の自分」へと心の視野が広がったことです。視野が広がったことにより、「もっと自分自身を見つめて，夢に向かって前向きに頑張っていこう」という思いが強くなりました。自分の将来に向けて，この海外研修の成果を十分に発揮していきたいです。また，こんなに楽しく素晴らしく幸せな研修をすることができたのは，支えてくださった多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

2年 大沼 拓也

I はじめに

日本とは季節が逆のオーストラリア。秋田が雪深い冬の時、真夏を迎えるオーストラリアにとっても魅力を感じました。そして、日本とは異なる環境に触れることで、僕自身の物の見方を見直し、新しい考え方を身につけられるのではと思いました。僕の夢は海外で働くことです。オーストラリアには、有名な観光地がたくさんあり、観光客が世界中から訪れます。また、移民を受け入れてきた歴史から、いろいろな人種が暮らしているので文化も多様だと思います。異なる言語や文化をもった人々が、どのようにコミュニケーションしているのかということにも強く興味をもちました。自分の夢に一步でも近づくためにも、この研修に参加しようと思いました。

II 研究テーマと設定の理由

研究テーマ **大仙市にさらに観光客が来るようにするためには、 どのような工夫をするべきか？**

僕は英語の勉強が苦手です。英語でのやりとりや、自分の思いを英語で表現することには自信がありません。外国の人々と関わることに對して、不安でいっぱいでした。そう感じている人はたくさんいるのではないのでしょうか。しかし、知らないことに對しての興味やあこがれは人一倍強く、初めて訪れる外国に大きな期待を抱いていました。そこで、今回の研修で、オーストラリアでは、僕のような世界中からの観光客とどうやってふれあっているのかを実際に見て、「どうすれば多くの人にその土地のよさを知ってもらい、訪れてもらえるのか」を調べてみました。

III 調べた内容

① 言葉の壁について

僕は、ボブさんカーメルさん夫妻の家で3日間ファームステイしました。予想どおり、相手が言ったことはよく分からず、言いたいことも英語で表現できずに、もどかしい思いをしました。会話が成り立たず、気まずい雰囲気になることがあり、自分の英語力不足を強く感じました。それでもホストの方々は笑顔でゆっくり話をしてくれました。こちら意思疎通するために、ジェスチャーを使っているうちに、何とかわかってもらえるようになりました。伝えたい、関わりたいという気持ちがあれば、言葉の壁を超えられるのかもしれない。

オーギーキッズとの交流会でも、同年代とはいえ、最初はコミュニケーションをとっていくのが大変でした。もじもじしている僕に對して、オーギーキッズは積極的に話しかけてくれました。そのおかげで僕もゲームやレクリエーションに楽しく参加できたし、片言の言葉を通してお互いしだいにうちとけられたと思います。そこで僕は思いました。彼らは小さい

頃からこうやって外国の人たちと交流をしているからこそ、大人になってもいろいろな人に気軽に声をかけたり優しく接したりできるのではないのかと。大人になると恥ずかしさや言葉の壁のせいで、外国の人と関わるのが大変に感じると思います。だから、小・中学校のレベルで外国の学校と関わる機会を作るといいと思います。このたびの中学生のオーストラリア研修はもちろん、大仙市に外国の小中学生を招いて交流することも有意義だと思います。ただ、実際に何度も行き来するのは難しいので、インターネットなどを利用して交流することもできると思います。

関わりたいという気持ちと、関わるためのきっかけや環境づくりが大事！

② 観光地として

オーストラリアは自然が豊かな国です。僕は、サンゴ礁に浮かぶグリーン島、渓谷の中を走るキュランダ鉄道などを訪れました。この自然を生かし、オーストラリアではどのような工夫をして観光客をひきつけているのかを調べてみることにしました。

オーストラリアには、日本ではめったに見られないものや、珍しい植物がたくさんあり、絶滅危惧種の植物も植物園で見ることができました。きれいな海、サンゴ礁、美しい魚もたくさんいました。シュノーケリングは、まるで夢の中にいるようでした。キュランダ村では先住民であるアボリジニのショーを見学しました。僕はこうして実際に色々なことを経験して、人々が観光に期待するのは何かといえば、やはり珍しいもの、その土地にしかないものを見たいということではないかと考えました。



オーストラリアでは、何か新しく作ったものではなく、その土地に昔からある自然や文化に誇りを持ち、保護し、それをアピールすることで観光客を呼んでいます。大仙市にも、ここならではのよさがあり、世界に誇れる行事もあります。昔からの生活にも、独特の文化があるのです。たとえば、雪国での暮らしは、暖かい地方に住む人には興味があると思います。また、身の回りについても一度見直して研究し、多くの人が自分たちの町のよさを再発見できれば、観光地として魅力的になると思います。さらに、実際にここで暮らす僕たちが現地ガイドをしてお客さんと交流する企画なども、喜んでもらえるのではないかと想像しました。

地域のよさを誇りに思い、人どうしの交流でよい思い出づくり！

③ おもてなしの心

キュランダ村のアボリジニのショーでは、迫力あるダンスを見る他にも、独特のダンスや武器となるブーメランを投げる体験をしました。簡単そうに見えても実際にやってみると難しかったです。このような体験ができることも、観光客に人気があるのだと思いました。これを大仙市で

も生かせないかと考えました。たとえば、僕の地域には「刈和野の大綱引き」がありますが、これは上町、下町に分かれて大きな綱を引き合うという伝統ある行事です。この行事には、毎年多くの観光客が参加して盛り上がります。大人になったら、地元のよさを海外にも積極的に紹介し、興味をもってもらうことからはじめ、僕たちがしてもらったように観光客を温かくもてなしたいと思います。そうすれば、たくさんの人に楽しんでもらえるし、同時に僕たちもふるさとを誇れるようになると思います。

地域のよさを世界に発信。広めよう、もてなしの心。

IV エピソード

ファームステイにて・・・

◎ ホストファミリーはいろいろなところに連れて行ってくれました。その中でも心に残っているのはミラミラフォールズです。そこはとてもきれいな滝で、観光客がたくさんいました。ここでも観光に関しての工夫がありました。例えば、ここの歴史について書かれた英語のパネルがありました。僕は少ししか読めませんでしたが、訪れた観光客にはとてもわかりやすかったと思います。大仙市でも観光地を紹介したパネルを設置していると思いますが、外国の方にも分かるように外国語で表現するという工夫があれば、ピーアールするのに便利だと思いました。



◎ 標高が高く強い風が吹くのを利用して風車で発電していました。農業等に使う電力を補うそうです。日本でも、風力発電を利用した取組が行われています。どこでも環境に優しいエネルギーを生み出そうとしているのだなと思いました。



◎ また、昼食に、僕たちからのお礼の気持ちとして日本食を作りました。そうめん、みそ汁、抹茶を味わっていただきました。ステイ先の家族のみんなにとってもおいしいとっていただいたときはうれしかったです。日本食は栄養面でも、おいしさでも誇れるものだと思います。だから、日本食についての知識を身につけて、海外の人たちにもっと「日本にはこんないいものがある」ということを紹介できると、日本に興味をもち、来る人が増えると思いました。その夜、食後のデザートにマンゴーを食べました。日本でも食べたことがありましたが、日本のものとは違い、とても濃厚で甘く感じられました。このデザートはステイ中、毎日食べることができて、印象に残ったオーストラリアの味です。大仙市にも地域特有の食材がたくさんあります。それを大仙市のホームページで紹介し、海外に配信して興味をもってもらいたいと思いました。

◎ ファームステイの生活で、一番大変だったことは、やはり言葉でした。カーメルさんに洗濯機を貸してもらったとき「メイアイユーズクリーンマシーン？」と聞いてみました。通じなかったようで、はじめは悩んでいましたが「クリーンマシーン？オーケー！！」と言って、洗濯機がある

ところに連れて行ってもらいました。「やっと通じた」という安堵感がありました。

また、ホストファミリーと日本について会話をしているときに、内容がほとんど分からなかったことがありました。何とか聞き取れた単語を結びつけて考えると「日本には頭がいい人がたくさんいる。しかし、中国に経済的に負けている。それは日本にはお金がないからだ。」という日本の短所について話しているようでした。ぼくはもっと英語力をつけると、こんな簡単な会話にも難なく参加することができたと思います。やはり英語力の大切さを実感しました。僕たちは中学校の頃から英語を勉強していますが、さらに、小学生の頃から英語に触れ興味をもったり、ALTの先生と気軽に会話をしたりすると、英語が身近になると思います。



V 海外研修を終えて

9日間の外国での体験を通して、まず、僕は普段、家族からどれほど支えられていたかを実感しました。このようなすばらしい研修に送り出してくれたことに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、「自立」を目標にして、責任ある行動をこころがけたいと思います。

また、オーストラリアの人々と交流して、「失敗をおそれず取り組む」ということを学びました。僕は、与えられたり用意されたりしたことに対しては、真面目に取り組める方だと思いますが、積極性が足りないと感じました。考えていることは黙っていても伝わりません。やはり、すすんで言葉や行動で示して周囲と関わっていけば、もっと楽しく豊かに生活できるのだと思いました。このことは、僕にとって大きな収穫でした。

そして何より、改めてふるさとについて考える機会に恵まれたことは大きかったと思います。自分の暮らす場所から離れてみて、新鮮な目で見直すと、当たり前だと思っていた環境が、実は価値のある文化なのかもしれないと思いました。僕は、地域の人々に支えられています。地域のためになにか役に立つことはないか、できることはないかを考え、それを進んで実行できるようになりたいと強く思いました。

オーストラリアの環境保護

No. 1 2 西仙北中学校 福田伊織

1 はじめに

私には、小学生の時から「海外に行き、生きた英語に触れたい」という気持ちがありました。この海外研修にはぜひ参加したいと思っていたので、参加が決まった時はとても嬉しかったです。1月3日、大雪の秋田を後にしてオーストラリアへ。ここから、私の「海外研修」が始まりました。私の胸の中は、外国での生活への期待と、自分の英語がきちんと伝わるかという不安でいっぱいでした。

2 自主研修テーマと設定理由

「よい環境を保つために、ゴミや水資源についてどのような工夫ができるか？」

私は、このことを自主研修テーマとしました。設定した理由は二つあります。

- ① 大仙市の環境を少しでもよくしたいから。
- ② オーストラリアの環境を守る工夫を知りたかったから。

3 調べた内容

(1) 節水の工夫について

オーストラリアではあまり雨が降らないため、水不足に悩まされていると聞きました。ここで私は、オーストラリアでの日常の節水方法を知りました。

- ① シャワーは一人1回5分まで。
- ② 皿洗いは1枚洗う毎に水を止めて、水を流しっぱなしにせずに洗う。
- ③ 歯磨きの時は、水を流さずにうがいの時だけ使う。

オーストラリアではこのような節水をしないと「水」の確保が難しいのかもしれない。この地では水がどれだけ大事なものかを実感しました。地域の条例で決まっているようなのですが、住民の意識の高さはすばらしいと思いました。

私は、シャワーは5分ということに驚きました。水はどこにも常にあるもの

で、好きなだけ使える自分の家での生活とはかけ離れていたからです。最初は不便だと思いましたが、すばやくできるように、洗う順番を変えたりして時間を守ることができるようになりました。これなら家でもできそうです。この体験から、自分にできる範囲の節水を心がけようと思いました。

水はいつまでも豊富にあるとは限りません。大変な事態を起こさないためにも、水は限りあることをひとりひとりが意識し、効率よく使う必要があります。私は、小さな節約でも、みんなで取り組めば大きな節約になることを目の当たりにしました。この研修で学んだことを多くの人に伝え、節水を呼びかけたいと思います。

(2) ゴミの処理について

日本と同じように、オーストラリアでもゴミの分別をしていました。右がオーストラリアで見たゴミ箱です。サイズ、形は地域の役所で指定されています。これに入ら



ない粗大ゴミは、ほぼ月1回、指定された場所に捨てることになっています。ただし、驚いたことに、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」の区別はありません。ここではゴミは燃やさずに地面に埋めます。オーストラリアの国土面積は、日本の約21倍です。ゴミを埋める場所はいくらでもあるのでしょうか。しかし、燃えるゴミの回収も1か月に1回ということですから、日本とは比較にならないくらいゴミが少ないことが分かります。

日本の狭い国土では、とても埋めるわけにはいきません。ゴミは、生活する上では必ず出ますが、ちょっとした工夫や努力をすればゴミの量は減ると思います。例えば、食事を残さずに食べて残飯を減らしたり、リサイクルできる物はリサイクルしたり、物を丁寧に使ったりすることです。ステイ先には家畜や動物がいましたが、それらのフンを肥料にして作物を育てていました。日本でも昔はそのようにして無駄のない生活をしていたはずですが。「もったいない」という意識をもって普段の生活を見直すことが必要だと思いました。たとえば、

それぞれの家庭でルールを決めるというのはどうでしょうか。ゴミは小さく刻んでかさを減らすこと、余計な包装紙は買うときに断ること、使い古しのタオルは雑巾にして生かすことなど、こんなことでもゴミの量は減るのではないかと思います。

オーストラリアのゴミの分別を調べ、世界に興味が広がりました。そこで、日本の面積に近いドイツでのゴミ事情についてもインターネットで調べてみました。ドイツは、環境先進国です。日本のゴミの分別もドイツに習ったものです。ドイツでは使用済みのペットボトルを洗い再利用するそうですが、日本ではリサイクルに力を入れています。文化の違いによってできる取組も変わってくると思います。世界中のいろいろな国のゴミの分別について調べ、日本でも取り入れることができるものは積極的に取り入れていくことも大切だと思います。

4 エピソード

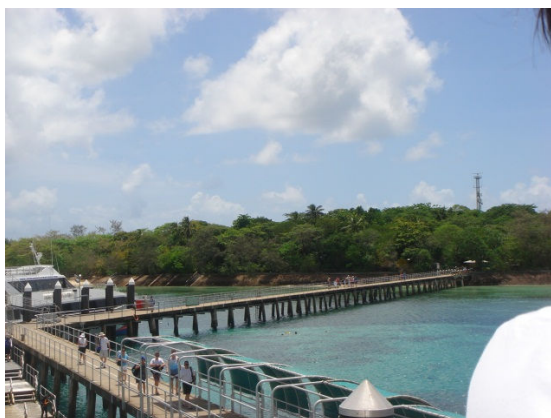
- ファームステイ先では、豚、鶏、牛、犬を趣味として飼っていました。私は初めてたくさんの動物を飼っている家を見ましたが、これがオーストラリアでは普通のようなです。広い土地があるからでしょう。また、敷地内には、ヤシの木やバナナの木があり、他にもトマトをはじめとするたくさんの野菜が栽培されていました。この家で食べている食材の多くは、自宅の農場で栽培されたものです。食事にでたオージービーフはとても美味しく、その土地でとれた野菜は新鮮でした。デザートのマangoアイスのマngoはここの気候にあった食べ物です。たくさん採れるようで、家には専用の冷凍庫があるほどでした。「地産地消」という言葉がありますが、そういえば私の家



でも同じことをしていると感ずます。この地産地消で地域ならではの料理が生まれるのでしょうか。また、コストの面からも良いことだと思います。

- 私はグリーン島でシュノーケリングをしました。水中では、たくさんの魚やサンゴ礁を見

つけました。ガイドさんから事前に、サンゴに触るとサンゴが死んでしまい、環境が悪化すると聞いたので、触れないように注意しました。サンゴ礁の保護のために観光客にも注意を促し、みんなで取り組んでいるのです。失ってしまった自然はなかなか元に戻りません。だから、私たちはわがままな振る舞いをせず、自然を大事にしていかなければならないと思いました。そして、海から上がると、いつの間にかに日焼けをしていました。オーストラリアの日差しの強さを実感しました。



5 全体を通して

ファームステイをして生きた英語に浸って暮らしたことは、私にとって貴重な体験でした。とにかく伝えたいことを相手に発信しないと生活できません。伝えなければ何も始まらない毎日なのです。なにも完璧な英語を話す必要はないので、伝えたいことを相手に発信して積極的に関わるのが重要だと思いました。

しかし、そうは言ってもやはり上手な英語でやりとりしたら、もっとスムーズにコミュニケーションできるのと思う場面が多く、英語力の不足を実感しました。中でも、相手の話を聞き取れなくて会話が続かないことがあり、苦勞しました。これからは、リスニングに力を入れて、英語の勉強をがんばりたいです。

さらに、私は、外国に出かけたことで、「世界」や「地球」というスケールでものを考える機会をいただきました。今回、研修テーマを通して、オーストラリアと日本の生活を比較して考えることができたのも収穫だと思います。ゴミ処理や資源保護の問題は、世界共通の課題です。その国の事情や地域の特徴はあるかもしれませんが、知恵を出し合っって様々な工夫をすることで、少しでも解決していけたらと思いました。まずは、身近なふるさと大仙市の環境問題に興味をもったので、調べてみたいと思います。

最後に、私が海外研修に参加できたのは、先生方や家族の支えがあったからです。本当にありがとうございました。私はオーストラリアでの日々を一生忘れないでしょう。

オーストラリアの自然環境

No.13 中仙中学校 戸堀美奈子

I はじめに

ずっと心待ちにしていたオーストラリア研修。社会科で学習したオーストラリアは、広く綺麗でとても素敵なイメージがあって、私にとって憧れの国でした。今回の事業に参加できることになって楽しみな反面、不安な気持ちもたくさんありました。

II テーマ設定の理由

私は今回、「CO₂の増加について私たちにできることは何か？」という研究テーマを設定しました。地球上のCO₂排出量が増え続けている問題については、よくニュースなどで聞きますが、個人個人でどのようなことができるのか具体的にはよく分かりません。そこで①世界でもCO₂の排出量が多いとされているオーストラリアの人たちはこの問題についてどのくらい意識しているのか、②オーストラリアでは、一人一人がこの問題を解決するためにどのように取り組んでいるのか、という二つのことについて知り、また、オーストラリアの人たちから学び、自分たちの身近で何かできることはないかと思い、このテーマにしました。

III 調べた内容

事前学習で、オーストラリアはCO₂の排出量が世界でも多い方だということを知りました。まず、①の「世界でもCO₂の排出量が多いとされているオーストラリアの人たちは、この問題についてどのくらい意識しているのか。」という課題についてです。ファームステイ先のハンズさんとマリータさんに、この問題について質問しました。ハンズさんのお話では、「CO₂の増加が地球温暖化につながるということは、ニュースでもよく報道されている。」そうです。オーストラリアの人たちも、この問題に対する意識は高いようでした。

次に、②の「オーストラリアでは、一人一人がこの問題を解決するためにどのように取り組んでいるのか。」という課題についてです。このことについても、ハンズさんとマリータさんにお聞きしました。その結果、「特別なことはしていないが、新しいものを作るにはたくさんのエネルギーが使われ、その結果、CO₂の増加につながる。だから私たちは、できるだけものを大切に使うようにしている。」とのことでした。

IV まとめ

日本では、エネルギーを節約できるような商品に買い換えることで、CO₂の削減に協力しようという動きがあります。しかし、ものを大切に使うことが問題の解決につながるということは考えたことがなかったので、とても大切なことを教わったと思いました。これは、私にも実践できることなので、早速日常生活の中で心がけたいと思います。また、家族や友達にも伝えて、身近なところから広めていきたいです。

V エピソード

1 雪が降らない？！

オーストラリア全体として冬は雪も降るそうですが、私たちが今回行ったケアンズは熱帯気候で、雨季と乾季の二つしかないと聞きました。つまり雪は降らないのだと気が付き、驚きました。

私も雪が降らない気候があるのは知っていたし、今回行くところも熱帯の気候だと学校で大体は習っていました。しかし、雪国で育った私にはなかなかイメージできないでいました。ですが、実際は授業で習った通りのことを私は自分の目と身体で確かめてくることができました。

2 ファームステイ先での出来事

私のグループは、ハンズさんとマリータさんのお宅にファームステイさせていただきました。2人とも優しくていつも笑顔だったので、私の不安と緊張もいつのまにかなくなっていました。また今回のファームステイで驚いたことが幾つかあります。一つ目は家にプールがあったことです。事前学習会で聞いてはいましたが、私が想像していたものよりもはるかに大きくて驚きました。しかも、深さはなんと・・・2メートル！！もちろんプールの底に足はつきませんでした。二つ目はいろいろなものの大きさです。大げさですが、目にするすべてのものが大きいと感じました。家もペットの犬もジュースの入れ物も・・・。三つ目はファームステイ先の家についてです。私がファームステイさせていただいたお宅は比較的目立たないところにありました。しかし、敷地がとても広



かったです。入っていくと、まず手作りの素敵な門がありました。この門はマリータさんの自慢の門だそうです。次に綺麗に手入れされた、たくさんの植物が私たちを迎えてくれました。花はもちろん様々な植物が植えられていて、畑には野菜も大事に育てられていました。バジル、バナナ、パイナップル、スター

フルーツなどなど。こんなにたくさん植物を2人で育てているの？と疑問に思うほどたくさんありました。

また、今回のファームステイでは、ハンズさんとマリータさんのお友達とも触れ合うことができました。一緒にピクニックに行ったり、おやつを食べたりしました。一緒に過ごせた時間は短かったのですが、楽しかったです。あつという間に時間は経ち、気が付けば3人とお別れの日でした。寂しかったです、お別れの時は感謝の気持ちでいっぱいでした。

3 オージーキッズとの交流



私はオージーキッズとはどのような人たちなのか気になってしょうがありませんでした。ですが実際に会ってみると私たちと変わらないと感じました。オージーキッズとの交流では初めてすることがたくさんありました。チームのみんなと協力して壁を越えたり、網の下をくぐったり、木がたくさんあるところを走ったり、泥水の中に入ったりと、普段の生活では体験できないことをしました。服は汚れましたが、楽しかったです。夕食後にはみんなでダンスもしました。言葉では言い表すことができないくらい楽しかったです。オージーキッズと別れた後は土ボタルの観賞に行きました。暗闇の中に小さな光がたくさん浮かぶ様子は美しかったです。

VI 海外研修を終えて

今回の海外研修で、日本では体験できないことをたくさん体験することができました。また、存分にオーストラリアを満喫することもできました。最終日には、日本に帰りたくない！もっとオーストラリアにいたい！と思うほど楽しかったです。私がこれだけ楽しんでこられたのも、周りで私を支えてくれた方々がいたからだと思います。本当に感謝の思いでいっぱいです。今回の海外研修で学んだことを、家族・友だちをはじめ多くの人に伝えていきたいです。また、私自身のテーマ「CO₂の増加について私たちにできることは何か？」では、身近なところで『私たちにできること』を見つけることができました。どんな些細なことでも自然環境のために取り組んでいきたいです。

また、今回はオーストラリアから多くのことを学びましたが、次は他の国に日本の取り組みを伝えたいと思います。そのためには、もっと英語を学ばなければ、と強く思いました。日頃から英語の授業をしっかり受け、自分の将来に

も生かせるように勉強に励んでいきたいと思います。また、これからもいろいろなことに関心を持ち、将来は日本の課題はもちろん、世界規模の課題にも向き合っていけるような人になりたいと思います。



オーストラリアでの体験

NO.14 豊成中学校 高橋日輪

はじめに

私は、新年を迎えてすぐの1月3日から11日まで、オーストラリア研修に参加してきました。皆さんがご存知のとおり、オーストラリアは、広大な国土・豊かな自然で有名です。私達は、その中でも面積がニューサウスウェールズ州に次いで大きい、クィーンズランド州に行きました。クィーンズランド州は、オーストラリア北東部に位置し、熱帯・亜熱帯に属します。グレートバリアリーフ、ゴールドコーストやケアンズなどの観光地が有名です。



レインフォレストロッジからの風景

エメラルドグリーン的大海



カメラを落としそうになるほどの強い風。目の前に広がるブルーとエメラルドグリーン的大海。

グレートバリアリーフの広がるグリーン島を訪れたのは、1月8日。オーストラリアに着いてから5日目でした。朝早くにロッジを出て、バスに乗りました。前の晩5時間しか寝ていないため、バスでの2時間は眠って過ごしました。

バスを降りると次は船です。「こんにちは」と日本語で出迎えてくれた女性乗組員に挨拶を返しながら、3階の座席へと続く階段を上りました。しばらくして、船が動き始めました。私はその時、「このままゆっくりと船が進むだろう。」と思っていました。ところが船はぐんぐんスピードを上げ、ひどい揺れが起こりました。強い風で帽子が飛びそうになったので、帽子を外し畳んで鞆の中にしまいました。外を見るとすごい勢いで水しぶきが立っていました。それは反対側の座席にも飛び散る程だったようで、「キャー。かかった。」という声が後ろから聞こえてきました。しかし、私にはこの水しぶきが、楽しく感じられました。強い揺れも風もまるで遊園地のジェットコースターのような感じでした。

私は波に揺られながら、向こう側の海が緑色になっているのを見ました。その時は、「グレートバリアリーフだ！」とつい声を出してしまいました。すぐに鞆からカメラを取り出して、電源を入れました。カメラの電子音が聞こえないほど大きな音を立てて動く船が、段々とエメラルドグリーン的大海に近づいて行きます。

「カシャッ。」周りの波や風の音で聞こえないはずの「シャッター音」が耳に入ったような気がしました。私は海を機械越しに見るのをやめ、青と緑の海に目を向けました。そして体を前に乗りだし、青と緑のコントラストをしっかりと目に焼き付けました。「とてもとても美しい。」と隣の外国人がため息混じりに言いました。私もその美しさにただ感嘆するばかりでした。

グリーン島に到着し、シュノーケリングの道具を借りました。シュノーケリングとは海に潜って魚などの海の様子を

見るものです。

強い日差しを浴び、今にも湯気を出しそうな砂浜。私はシュノーケリングの道具を身に付けました。そっと足を水の中へ入れるとまとわりついていた砂が散らばりました。なんだか妙な愉快さを感じ、もう片方の足も入れてみました。何度か繰り返すうちに飽き、私はザブザブと水を掻いて進みました。

やがて水の高さは私の顔の位置にまでなったので、ヒレを使って泳ぐことにしました。しかし、潜っても呼吸の仕方が分からず、おまけに目に海水が入ってしまったので、岸へ戻ることにしました。そこからはプールで泳ぎました。

こうして私の「初めての海」は終わりました。

ファームステイ

私は3日間ボーガート家にお世話になりました。6人の家族との生活は楽しく、思ったよりも自由なものでした。

○ファームステイ1日目

アンティさん(写真右端)に初めて会いました。「あなたに会えて嬉しい」と満面の笑顔で言われた時、「オーストラリアに来た」という実感がわきました。

そして、男子のファームステイ先の方々と合流し、ハンバーガーをご馳走になりました。その後も、皆で「ジェンガ」などのゲームをして遊びました。

その後、アンティさんがドライブに連れて行ってくださって、オーストラリアならではのものをたくさん見ました。



アンティさん



クイーンズランド州らしいオブジェ
(ミラミラ)

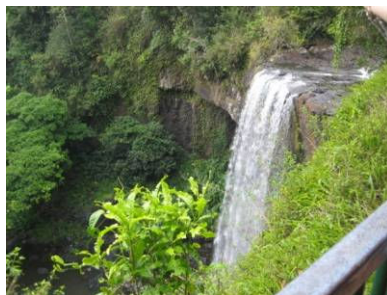
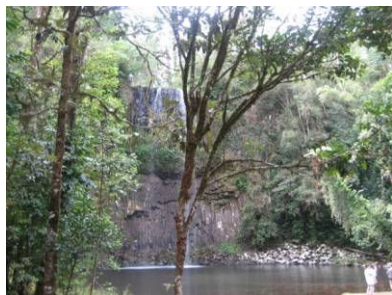


カウリマツの古木(樹齢約870年)



公園の像

○ファームステイ2日目



ミラミラ滝・エリンジャー滝など

朝食を食べてすぐ、滝めぐりに連れて行ってもらいました。近くにこんなに多くの滝がある事に、感動しました。

○ファームステイ3日目

午前中先生方が来られて、一緒にお茶を飲みました。皆英語で会話していて、少ししか分からなかったけれど、楽しかったです。

午後アンティさんが牧場を見せてくれるというので、カメラを持って出かけました。牧場はとても広くて起伏があり、ほとんど山登りをしているような感じでした。牛を見たときにはもう疲れていて、身軽に歩くアンティさんに驚きました。



アンティさんの牧場

私の研究テーマ

日本では、いじめ問題などたくさんの人権に関する問題があります。実際、2011年10月滋賀県大津市で、「いじめられていた中学生が自宅のマンションから飛び降り自殺する」という大変痛ましい事件がありました。

私は事前に、「オーストラリアは広い。しかし人口は少ないので、オーストラリア人は温厚である。」という情報をインターネットから得ていました。私はこのことから「オーストラリアには、いじめのようなものがほとんどないのではないか」と考えました。そこで、「日本人はオーストラリア人のようになれないのだろうか」と思い、研究テーマを「**オーストラリア人と日本人 ～人にやさしくするためにできること～**」としました。

オーストラリア人は「個性的」

私のファームステイした家庭には、私と同じ14歳の女の子がいました。その女の子ララ・ボーガートさんに、いろいろとお話を聞いてみました。

ララさんに「いじめ」について聞いてみると、「先生たちの目が厳しくて、見つかると厳しい罰を受ける。第一、誰もそんなことをしようと思わない。」という答えが返ってきました。

ではなぜ誰もそんなことをしようと思わないのでしょうか。

私のもったこの疑問に対する答えは、1月9日(6日目)の「オージーキッズ(オーストラリア人の子供たち)」との交流会で見つけました。

私はオージーキッズと一緒に泥に飛び込んだり、アスレチックで競い合ったりしました。その中で見つけたオーストラリア人の特徴は、「個性が強い」ということです。オージーキッズには、とてもしっかりした子、とても明るい子…など様々な個性をもった子がいました。中にはものすごく個性の強い人もいました。オーストラリア人は、「自分」を大切にするのです。だから例えば、「絶対にいじめをしない」というポリシーを最後まで貫き通します。

日本人は「自分」を大切にする以前に、自分の意見すらなかなか言えません。なぜなら、「こんなことを言えば、嫌われてしまうかも」という不安をもっているからです。そのような考えでは、個性をもつことはできません。したがって「いじめは絶対にしてはいけないことだ」と思っている、周りがいじめを始めると断れずに、結局は一緒になっていじめをすることになります。あるいは、いじめを黙認し、結果としていじめに加担してしまうことになります。

これが、日本人とオーストラリア人の大きな違いだと思います。



ララ・ボーガートさん

いじめサポーター

オーストラリアやカナダの学校では「いじめサポーター」というシステムが実施されています。私は以前からこのシステムに関心を持っていました。そこで私は、この「いじめサポーター」のシステムを日本にも導入することを提案します。

「いじめサポーター」とは、いじめが起きた時にその解決をする要員です。その仕組みは、次のとおりです。

- ①クラスにいじめがあることを知った生徒が、担任の先生にそれを伝える
- ↓
- ②先生はいじめがあることのみを伝え、生徒の中から「助けてくれる人」を募る:「いじめサポーター」
- ↓
- ③いじめサポーターが、加害者・被害者の両方から別々に話を聞く
- ↓
- ④いじめがもう起こらないよう、和解という形で解決へ

* 彼らを中心としてこの一連の流れが行われる。先生は解決の報告を待つのみ

この制度のよいところは、生徒同士でクラスの大問題である「いじめ」を解決できることです。「大人」である先生が加害者を注意するよりも、同じ目線の「生徒」が当事者の意見を聞き、間違っていることをはっきりと言ってあげた方がいいのではないのでしょうか。そうすれば加害者もすんなりと納得できるし、その後は周囲の監視の目が光り、いじめをしなくなります。

さらに、「いじめサポーター」の活動を通し、いじめられている人の辛さを知ることができます。すると、「いじめサポーター」を経験した人はその後絶対にいじめをしないことを誓うでしょう。また自分がいじめられた時は、皆が助けてくれると信じることができます。だからいじめを受けたら、不安をもたずに告白することができると思います。そうして、いじめの数は限りなくゼロに近くなります。以上のことから、私は「いじめサポーター」を推奨します。

日本人全員に「オーストラリア人のようになれ。信念を持ち貫け。」といっても無理かもしれません。また、日本人特有の「奥ゆかしさ」「人の好きさ」を失ってほしくありません。日本人に合ったやり方などを考えることも大切です。

「いじめを許さない心」をもって

もしいじめサポーター制度を導入したとしても、それだけでいじめが解決できるとは限りません。先に述べたとおり、日本人は自分の意見をなかなか言えません。いじめの存在を先生に伝えるのが難しいこともあるでしょう。

だからオーストラリア人のように、「いじめを許さない」という気持ちだけはしっかりと持ってほしいと思います。いじめの存在を知った先生は、伝えに来た人のことを生徒に絶対に言わないので安心できます。いじめの存在を知らせたからといって嫌われることはありません。

私も「いじめを許さない心」をもっていたいと思います。

皆さん、いじめのない学校を目指しましょう。

海外研修を終えて

今回の海外研修旅行を振り返り、情景としてよみがえるのはやはり「緑色の海」「ホストファミリーとの食事」の二つです。

「緑色の海」はその美しさが目に焼き付いて、思い出すたび「また行きたい」と思います。

「ホストファミリーとの食事」は、「楽しかった」という思い出です。初日は緊張してあまり話せなかったのですが、3日間ですいぶん会話できるようになりました。ララさんともとても仲良くなれました。ララさんは手



でドラムの鳴らし方を教えてくれたり、インタビューに真剣に答えてくれたりしました。私はララさんと折り紙を折ったり、鬼ごっこをしたりしました。

さらに、私にとってこの海外研修はとても有意義なものでした。英語の上達・外国人との英語でのコミュニケーションなど、予想以上に多くのものを得ることができました。この経験は、これからの私の将来に役に立ってくれると思います。この経験を出来る限り毎日の生活に生かしていきたいです。同時に「思い出」でもあるこの9日間を一生の宝物としたいです。この度私がオーストラリア研修に参加できたことにとっても感謝しています。

～Australia Report～

No.15 協和中学校 今野 利々佳

1 はじめに

私がこの研修に参加したいと思った理由は、「自分の英語の実力を実際に試してみたい。」「オーストラリアと日本との違いを見つけたい。」「外国に行って、外国人とたくさんの交流をしたい。」という思いからでした。更に、自分の視野を広げ個性を伸ばしていくためにも、是非行きたいと思いました。行くことが決まったときには、嬉しかったです。充実した9日間にしようと思っていました。

研究テーマ* 伝統食や食文化を引き継いでいくためには、どんなことができるか？

設定の理由* 私は、日本のお米が大好きです。昔からある伝統的な主食なので、これからも子孫にずっと伝えていかなければならないと思います。そのために、私たちはどんなことができるか考えてみたいと思い、このテーマを設定しました。

2 調べたことについて

(1) ファームステイ先のファミリーから聞き取ったこと

① どんな食事をしていますか？

オーストラリアで主に食べるのはパンと肉と野菜です。

② オーストラリアに伝統食はありますか？

あります。ステーキや野菜が昔から食べられています。

③ どの位の頻度で伝統食を食べていますか？

家庭で作ってときどき食べています。

④ オーストラリアには伝統食はたくさんありますか？

あります。ヨーロッパやアメリカの移民がたくさんいるから食事也多様です。

⑤ 伝統食を守っていくためにしていることはありますか？

伝統食を家庭料理としてときどき食べています。



←朝食のトースト



↑マンゴー！



↑夕食の Pasta とパンとジュース

(2) 聞きとりからわかったこと

分かったことは、オーストラリアにはたくさんの移民がいるので、さまざまな伝統食が食べられているということです。

日本にもたくさんの外国人がいます。それぞれの外国の人

たちは自分の国の食文化を大事にしながら、日本で暮らしていると思います。同じように日本でもさまざまな地方で、自分たちの伝統食を大事にしながら毎日生活しているのだと改めて思いました。

(3) 自分の考え

私は、日本の伝統食を引き継いでいくために、伝統食をたくさんの人に紹介していき、調理して食べていくとよいと思います。例えば、家庭や地域、学校で地元の伝統食を作って食べる機会を多くすれば、伝統食を次の世代へ引き継いでいくことができると思います。日本食には栄養の面や見た目などでも優れたところもたくさんあります。それをアピールすることで、中華料理やフランス料理と同じように、日本の食文化が世界中に広まっていくのではないかと思います。

3 楽しかったファームステイについて

(1) こんにちは ロスファミリー！

ファームステイ先にはホストマザーの「スウ」と一緒に向かいました。一番最初に出迎えてくれたのは、2匹の犬、「ブリンディー」と「マリ」でした。その他にも、猫2匹とインコ4羽がいて、とてもにぎやかな家だなと思いました。14歳の「ダニエル」、17歳の「クリスタル」、お父さんの「グレン」も笑顔で迎えてくれました。



犬のブリンディーとマリ↑

① 綺麗な鉱石と見事な自然

1日目にファミリーに連れて行ってもらったのは、美しい自然が見られる場所でした。大きなレッドシダーを見たり、急な崖の下に向かって石を投げて遊んだりしました。オーストラリアの見事な自然を見て、日本との違いを見つけることができました。とてもスケールが大きかったです。

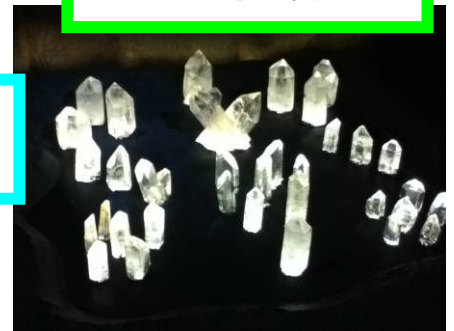
→
レッドシダー



↑クリスタルやアメジスト、化石がたくさんありました

その後に、クリスタルさんと一緒に鉱石店に行きました。お店の人に接客されて、これから何を見るのかなと思いながら、店の奥に進んでみると…たくさんの鉱石がありました。その中には大きくて綺麗なクリスタルやアメジストなどの鉱石があってびっくりしました。

クリスタルさんが、いろいろな鉱石の説明してくれました



② 日本文化の紹介

1日目の夜は、日本の文化や自分の家族の紹介をしました。日本の文化紹介では、折り紙、切り紙、あやとりを一緒にやったり、扇子、うちわを見せたりしました。箸のプレゼントは喜んでもらえてよかったです。折り紙で作った「かぶと」をダニエルがかぶってくれました。日本刀を持っていたのでびっくりしましたが、コレクションだそうです。



←ダニエルと一緒に「Jenga(ジエンガ)」もやりました



③ 湖 と 牧場で

2日目には、ホストマザーのスーと一緒に湖に行きました。二つの大きな湖があり、一つめの湖では、船に乗って湖をぐるりと1周しました。風が気持ちよかったです。二つめの湖ではスイミング。深くて、びっくりし、溺れるかと思いましたが、スーが助けてくれたのでホッとしました。



風が気持ちよかったです!→

←とても深かったです!



そのあとに、牧場に行って牛やカンガルーなどいろいろな動物を見てきました。

3日目にもワラビーを見に行ったり、ダニエルの友達の家の子牛を見たりして、たくさん動物が見られてよかったです。



↑ダニエルの友達の家の子牛たち



↑農場に行ったときの子牛!可愛い!



可愛かったけれど、↑手がべとべと!

(2) ありがとう!ロスファミリー!

3泊4日のとても充実したファームステイでした。ホストファミリーはいつも優しく、たくさん面白い所に連れていってくれました。最初はとても不安でしたが、ファミリーが笑顔で接してくれ、何より本当に親切にしてくれたので安心して楽しく過ごすことができました。最後に、ダニエルからオーストラリアの国旗がついているポーチと、クリスタルさんから石のプレスレットをいただきました。嬉しかったです。プレゼントとファームステイの思い出や写真は私の大切な宝物となりました。

ファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。



↑HELLO!スティービー!

THANK YOU FOR EVERYTHING!

4 見学地で

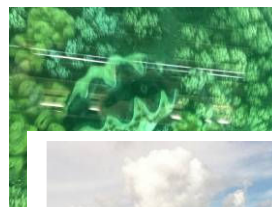
(1) オージーキッズとの交流

オージーキッズとの交流では、たくさんの友達ができました。みんな明るくて、中にはおもしろい人もいました。積極的な人が多かったのですぐに仲良くなることができました。私はダンスが大好きなので、最後にみんなで踊ったダンスは楽しかったです！



(2) グリーン島 綺麗なサンゴ礁！海！

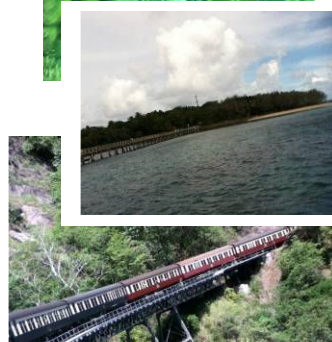
グリーン島は綺麗な海に浮かぶ島でした。こんなに綺麗な海を見たのは生まれて初めてです。昼食を食べてから、海で泳ぎました。浅かったのですが、サンゴ礁が広がり、魚や亀がたくさんいてびっくりしました。久しぶりに海で泳いだので楽しむことができました。



グリーン島の海！→

(3) キュランダへ！ アボリジニショー

「世界の車窓から」で有名なキュランダ鉄道に乗りました。滝や大きな岩があり、ダイナミックな景色でした。そしてその後にアボリジニショーを見に行きました。不思議なダンスでしたが、盛り上がり面白かったです。ショーを見た後は、アボリジニの笛で動物の鳴き声の真似を聞いたり、ブーメランを飛ばす体験をしました。



昼食にホットドッグを食べました。ソーセージが美味しかったです。

ボリュームが →
あって美味しい！



↑アボリジニショー

(4) ケアンズにて

ケアンズでは、大きなセントラルコートに行きました。そこは大型商業施設のようところで、たくさんお店がありました。食べたいものを注文するときは、英語やジェスチャーでトライしました。自信はなかったのですが、上手く注文できてよかったです。たくさん歩き、たくさんのお店に行って楽しかったです。

5 オーストラリアに行って…

私はこの研修でたくさんの人と関わり合うことができました。そして、積極的にコミュニケーションをとることは大切だと改めて感じることができました。ファームステイ先では、家族と一緒にいる時間を少しでも大切にしたいと思い、たくさん話してコミュニケーションをとりました。ファームステイは本当にあつという間でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができ、お世話にもなりました。私は、オーストラリアに行って本当によかったと思います。

今回の研修は人生で最高の思い出となりました。そして、今ではオーストラリアに行く前よりも、外国に興味をもてるようになり、またオーストラリアに行きたいと思っています。この研修で学んだことを将来に生かしたいと思っています。

列車に乗ってみんなでパチリ→



オーストラリアレポート

No.16 協和中学校 堀江 知夏

1 はじめに

私がオーストラリアに行きたいと思った理由は、以前、兄と姉が行ったのがきっかけでした。2人からたくさんの体験談や学んだこと、オーストラリアの動物や自然について聞き楽しかったので、私も実際にオーストラリアの地で、本物のコアラやカンガルーなどを見たり、地元の人たちの生活を体験したりしてみたいと思ったからです。また、英語しか通じないところでどんなことができるのか、私の言葉が通用するのかどうか挑戦してみたい気持ちもありました。今回、海外派遣事業に参加させていただき、たくさんの貴重な体験をすることができました。

2 研究テーマと設定の理由

今、日本では東日本大震災の影響で、電力供給に心配があるため、節電に取り組んでいます。また、大仙市では「環境家族宣言」をし、電力消費量を減らすことや節水にも取り組んでいて、私の家でも家族全員で気をつけています。私は昨年の猛暑によってダム貯水量が激減したことに驚き、水資源の大切さに気づいたことで、特に節水を心がけています。そこで、今回、私のオーストラリア研修のテーマは、「ECO活動としてどんな工夫ができるだろうか？～節水の取組を中心として～」です。少しでも地球の未来のために学んできたいと思いました。

3 調べた結果

私は主に「水」について学びました。オーストラリアでは、水資源がどれだけ大切なのかを実感することができました。

私が、ファームステイ先でシャワーを浴びようとしたら、水がなかなか出ない日がありました。日本ではそんなことはないので、驚きました。それに、水が出たとしてもシャワーの時間は5、6分と大変短く、苦勞しました。私は家にいるといつもシャワーの時間が長く、それが当たり前と思って生活してきたので、外国でのこのような様子にとまどいましたが、他のメンバーもつらいと言っていました。私の家族は6人います。それぞれが長時間のシャワーを浴びると、水は大変な量が必要になってしまいます。家族にも協力してもらい、オーストラリアのように、シャワーをこまめに止め、時間を短縮すると、節水ができると思いました。こういった工夫をし続けることは地球にとってもよいことだし、エコになると思います。

また、オーストラリアのスーパーで売っている「水」は値段が高く、こういったことを見ても、「水」は貴重なのだと心から思いました。

私たちは「水」の大切さを理解し、大事に使っていかなければならないと思いました。今回実感したことを周りの人たちにも報告し、さらに「ECO」活動を広めていきたいと思っています。



4 エピソード

(1) ファームステイ先にて

私がお世話になったのは、とても優しくて親切なパパとママ、そして動物がたくさんいる家庭でした。ショッピングをしにいろいろなお店に連れて行ってもらったり、宝石店やフリーマーケットに連れて行ってもらったりして、ファミリーと過ごした時間はあっという間でした。



(2) つらかったこと.....



①量が多いご飯

ご飯の量は日本の食事と全然違いました。とにかく量が多いのです。しかもたくさんすすめられました。本当に困ってしまいました。お腹いっぱい、苦しかったです。

②出なかったシャワーの水

水が出ないため、入れないときがあつてつらかったです。やっぱり水は大切だと思いました。

③通じなかった英語

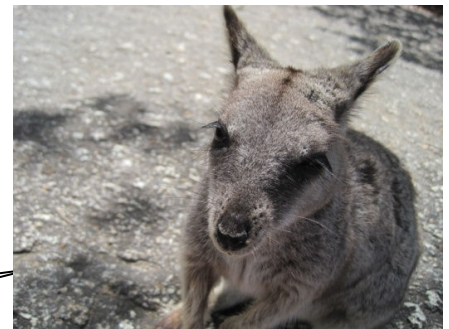
カタコトの英語と、未熟なジェスチャーだけで伝えるのは苦労しました。思っていることがなかなか通じなくてあせりました。英語の授業の大切さを実感した瞬間でした。

(3) 楽しかったこと

①ファミリーで行ったピクニック

お弁当を持って公園に出かけました。そこには小さいカンガルーがいました。

とても可愛くて触れることもできました。餌をあげたら、手をそえて食べていました。



かわいくて、「また会いたいな」と思いました。

②おいしいおやつ



ファームステイの3日間、たくさんおやつを食べました。一番のお気に入り.....

バナナケーキです。チョコチップが入っていておいしかったです!!家族のおみやげにしたいと思ったほどでした。

写真奥にあるのがバナナケーキです。

③日本からのお土産

ファミリーに日本から持っていったお土産を渡しました。日本の文化をまとめたものや扇子などです。ファミリーはとても喜んでくれてうれしかったです。また、記念にグループでメッセージを書き贈りました。ファミリーの心に残ったらいいなと思います。

みんなで協力してよろこんで
もらおうと頑張りました。



(4) オーギーキッズとの交流

オーギーキッズといっしょに障害物競争をしました。現地の子供たちはとても元気がよく、運動神経も抜群で驚きました。私たちも一緒にどろんこになって楽しかったです！！

他にも、いっしょに踊ったりして、happy になりました。みんな大人びた感じで同じくらいの年とは思えなかったのですが、たくさんのオーギーキッズと仲良くなることができました。

オーギーキッズと別れたあとで土ボタルの鑑賞に行きました。土ボタルは、いろいろな条件がそろわないと見られないそうで、とてもきれいでした。私には緑色に光っているように見えました。緑色に見える人は「野生的な目」をもっているのだそうです。貴重な体験をさせていただきました。

5 訪問地で学習したこと、見学したこと

(1) グリーン島

5日目は船でグリーン島に行きました。

海は青く、水がきれいでした。私は、グラスボトムボートに乗り、たくさんの美しいサンゴを見ました。これらのサンゴはしっかり守られているんだなと感じました。

この美しい海を見るためにたくさんの観光客が訪れていて、いろいろな言語のパンフレットがあり、その数の多さにびっくりしました。私が少し船酔いをしたとき、乗務員の方が氷をくれました。言葉はよくわからなかったのですが、私のことを気遣ってくれているのが表情からわかり、安心しました。そして、とても助かりました。オーストラリアの人は本当にやさしく接してくれました。



(2) 植物園・ヒルトンケアンズ

植物園に行き、オーストラリアの植物を見ました。葉や幹の大きな植物、毒のある植物など、たくさんの種類の植物がありました。先住民のアボリジニは、こういった植物を利用して昔から生活をしてきたそうです。毒を持つ植物は少し怖かったのですが、アボリジニはそのような植物とも共存して生きてきたんだと思いました。

ヒルトンケアンズはとてもすばらしいホテルで、値段の高い部屋や普段一般の人は入ることができない場所を見学させていただきました。大きな洗濯機や調理場も見ました。迷いそうなほど広くて、びっ

くりしました。いろいろな国のお客様が大勢来るので、どんなことがあってもしっかり対応するよう心がけているそうで、大変な仕事だと思いました。お客様と接する人はもちろん、見えないところでもたくさんの方が働いていて、みんながお客様に喜んでもらおうと頑張っている気持ちが伝わってきました。

(3) キュランダ

キュランダでは、アボリジニショーややり投げを見たり、ブーメラン投げを体験したりしました。そこで食べたミートパイはちょっとしょっぱかったのですが、あつあつでおいしかったです。



6 海外研修を終えて・・・

私は、この海外研修で、たくさんのことを学び、体験をすることができました。行く前はとても不安で、特にオーストラリアで私の英語が通じるのか心配でした。ですが、私なりにコミュニケーションをとりました。がんばって相手の英語を聞いて、がんばって私の言いたいことを伝えて、通じたときは本当に嬉しかったです。心から伝えようとする姿勢があれば、何とか通じるものだと思います。また、ファミリーは私の英語を一生懸命聞き取ろうとしてくれました。本当に優しく、面白い方たちでよかったなと思いました。私はこれからさらに英語を勉強して、しっかり英語を話せるようになったらまたオーストラリアに行き、今度は自分から話しかけて、コミュニケーションをとりたいと思います。

オーストラリアの自然を肌で感じることもできたのもよい体験でした。水資源が貴重な国で、あらためて「水」の大切さを理解することができました。これからも蛇口の水を出しっぱなしにしない、シャワーをこまめに止めるなどの工夫を続けていきたいと思います。また、こういうことは家族、友達にも伝えたいと思います。

本当に全部が貴重な体験でした。オーストラリアに行き、日本のよさも再確認することができました。そして何より、日本で当たり前のことでも、外国では違うこともあるのだということを知りました。この体験は一生忘れません。

送り出してくれた家族、教育委員会の皆様、学校の先生方、本当にありがとうございました。

私たちのゴミ問題のこれから

17番 南外中学校 小林 遥

I はじめに

私がこの研修に参加したいと思った最大の動機は、自分の英語力がどれほどのものかを知りたかったからということです。小学生の頃から英語を習い始め、中学校で本格的な授業を受けるようになりましたが、本当の英語力は日常生活でこそ試されるのではないかと考えていました。

海外への好奇心と挑戦する気持ちで参加した事業でしたが、これは想像よりも素敵な経験となりました。

II テーマについて

研修テーマ「ゴミの排出を減らすのにどんな工夫ができるだろうか？」

テーマ設定の理由

近年、地球温暖化をはじめ、多くの環境問題がニュースで取り上げられるようになりました。その中でも身近なもののひとつにゴミ問題があります。ゴミを排出することは、私たちが生きていく上で仕方のないことだと思います。ゴミの削減についてはすでにいろいろな工夫がされていますが、まだまだできることがあるのではないかと考えていました。そこで、私は、ゴミを減らすために他国ではどんな工夫が見られるのか、身近なところで他に実践できることはないだろうかと思いこのテーマを設定しました。

III オーストラリアのゴミの削減への取り組み

1 家庭での取り組み

(1) 冬は暖炉でゴミを燃やして部屋を暖める

ホストファミリーのマーティン家では、ゴミは燃えるゴミと燃えないゴミに分別しているそうです。ここでは石油ストーブは使わず、燃えるゴミを燃料にしています。また、燃えないゴミや暖炉を使わない季節の燃えるゴミは、決められたゴミ収集場にもって行きます。



(2) 買い物にはマイバッグを持参



一緒にスーパーへ行くと、ホストマザーのカレンさんはマイバッグを当たり前のように用意していました。レジ袋は有料となっているようで、カレンさんだけでなく、店内のお客さんほぼ全員がマイバッグを持参していました。日本でもレジ袋は一部有料化されていますが、オーストラリアでは日本よりもマイバッグの持参率が高いように感じられました。

また、デパートなどでお土産を買っている時に気付いたことがあります。それは、個包装の袋がつかないということです。

日本ではお土産にストラップなどを複数買えば、一個一個包装してもらえたり、袋をつけてもらったりできますが、オーストラリアではそれは無く、レジ付近には「個包装はいたしません」と張り紙がありました。実際に個包装でなくても不便には感じなかったので、無駄の出ないよい方法だと思いました。

2 公共の場、公共の施設での取り組み

(1) ゴミが落ちていない環境

世界遺産であるグレートバリアリーフに浮かぶグリーン島に行った際、私は次のような予想を立てました。それは、「グリーン島周辺の希少な魚が、誤ってゴミを飲み込んでしまわないようにと、ポイ捨てへの厳しい対策があるのではないか。」ということです。しかし、実際は特にそういう取り組みは見られませんでした。にもかかわらず、水中や砂浜だけでなく、フードコートや雑貨店の周りなどでもゴミは見当たりませんでした。また、多くの人で賑わっているケアンズにも足を運びましたが、ゴミ箱が多く設置されていて、ポイ捨ても見かけませんでした。

これらのことから、オーストラリアでは【ゴミの持ち帰り】や【ゴミはゴミ箱へ捨てる】という意識が高いことがうかがえました。

(2) ホテルでのゴミ削減の工夫

職場見学で、世界中に展開しているホテルにお邪魔させていただきました。ホテルは多くの利用者がいるため、ゴミもやはり多く出るそうです。そこで、ゴミを減らす工夫を聞いてみると、【一番気をつけているのは紙の扱い。ミスプリントの紙もまた裏を使うなどしています】ということでした。簡単なことをみんなでコツコツとしっかりこなしている様子が見え、うかがえました。

★ホテルの紙の削減についての私の考え★

私の学校でも同様の取り組みをしています。先生方が授業で使うプリントは、このように裏面も無駄にしないものが多いので、世界で有名な企業と同じことに取り組んでいることを嬉しく思いました。

どんな施設でもコツコツと小さなことを継続していくことは素晴らしいと改めて実感させられました。

(3) キュランダ村のフードコートにて

観光スポットとして非常に多くの人を訪れるキュランダ村。自由時間に、お店などを見て回りました。フードコートにはアイスクリームやクレープなどがあり、日本では紙にくるんで出すことが多いのですが、こちらではアイスクリームはコーンそのまま、そしてクレープは皿に載せてお客さんに出していました。皿は洗ってまた使うことができるので、こんなところでもゴミの削減をしているのだなと感心しました。

IV 日本と比較して

① ゴミ問題に関する積極性・意識の高さはオーストラリアの方が優れていると感じた。

日本では富士山を世界遺産に登録しようと働きかけていますが、ゴミが多くなかなか難しい状況だと聞きました。自分たちの国の自然や名所を守っていこうという意識をもつ人が足りないのだと思います。では、どうすれば意識する人が増えるのでしょうか。それはとても簡単なことだと思います。

まずポスターなどでの呼びかけをもっと積極的にすることです。ありきたりの言葉ではなく、心に残るようなフレーズを考えていくことが必要だと思います。そして注意する勇気も大切だと思います。「ダメだよ」という一言だけで、言われた人はポイ捨てをしづらくなりますし、そのとおりだと反省するきっかけとなります。

② ゴミの分別の仕方は日本の方が進んでいると感じた。

最近オーストラリアでも観光地など人が多く集まる場所では分別の仕方が変わってきているようです。グリーン島でのゴミの分別は、ステイ先よりも細かく、燃えるゴミ・缶・びんに分けられていました。少しずつでもこの方法が広まり、もっと分別への意識が高まってくると、さらにより方向へ向かうことができると考えられます。



V ゴミ以外の環境問題への取り組み

ゴミ問題だけでなく、環境問題に対する他の取り組みを見ることもできました。

- (1) オーストラリアでは太陽光パネルの設置が増えています。一年を通して気温が高いオーストラリアでは、太陽光を利用した発電を行い、自宅で使う以外にも余った電気を市に売る例も多いようです。
- (2) 高地で、ほぼずっと風が吹き続けているところもあります。そんなところでは風車を設置して、自然のエネルギーで電気を多くつくっています。
- (3) スーパーで買い物をしているときに、一度にたくさんまとめて買う人が多いことに気がつきました。まとめ買いすることによって、ガソリンも大幅に節約できると思いました。

VI テーマについてのまとめ

オーストラリアでのゴミ問題への取り組みは予想以上でした。オーストラリアと比べて日本が頑張らなくてはいけないのは次の二つです。

① ポイ捨てを減らす

日本では道端にタバコの吸い殻やお菓子の容器などが捨てられているのをよく見ます。実際地域のクリーンアップに参加すると、そのようなゴミが多く残念に思います。

しかし、オーストラリアの街ではポイ捨ては見当たらず、とても印象がよかったです。もっとゴミ拾いの活動やポスターなどによる啓発、ゴミ箱の設置を増やすなどでポイ捨てを減らしていきたいと思います。

② レジ袋などの使用をできるだけ控える

日本でもマイバッグを持つ人が増えてきて、ゴミ問題への意識の高まりがうかがえると思います。

しかし、オーストラリアではマイバッグを利用するのが当たり前だと感じられるほどに、ほぼ全員が持参していました。これを見て、日本も今のままで満足せず、もっと頑張るべきだと感じました。

また、日本のよい点としてもっと伸ばしていきたいものもあります。それはゴミの分別です。日本はゴミを細かく分別していると実感させられました。私は今まで分別が面倒という思いがありましたが、今回の派遣で、日本の長所としてしっかり頑張ろうと思いなおしました。日本国民全員がリサイクルへ積極的に貢献していき、それが世界中に広まっていけばいいなと思います。

VII エピソード

《一日目》1月3日

楽しみにしていた研修ですが、私は現地に入るまで不安な気持ちの方が大きく、緊張していました。他校の友達と会話をしているうちにだんだんと緊張は和らいでいきましたが、『現地ですまくコミュニケーションをとることができるだろうか・・・』という不安がなくなることはありませんでした。

そんな思いのまま、オーストラリア派遣スタートです！



《二日目～五日目》1月4日～1月7日

まず初めにファームステイです。私がお世話になったのはマンガリフォールズに住むマーティンさん一家でした。挑戦する気持ちと期待はありましたが、上手く気持ちを伝えることができずに気まずい空気になってしまうのではという不安が先立ちました。

しかし、実際に会ってみると、想像以上にフレンドリーな方たちでした。

マーティンさん一家は、頼りになるお父さん・レン、優しいお母さん・カレン、何事にも熱心なアーロン、笑顔が素敵なメリッ

サ、元気で好奇心旺盛なルークの5人家族でした。

ホストファミリーの素敵な笑顔のおかげで、言葉で伝わらなくても、ジェスチャーをつけたり、分かる範囲だけでも単語を並べてみたりなど、積極的に相手に分かってもらおうと話しかけることができました。何より、彼らも柔らかい物腰で理解しようとしてくれたので、特に会話に困ることもなく、むしろ楽しいと感じられました。

そこで体験したものの一つに、クリケットがあります。これは、オーストラリアで有名なスポーツです。私は名前も聞いたこともなかったのですが、実際に体験してみると覚えやすく、また面白いものでした。



ステイ先は大自然に囲まれていて、周りは緑ばかりなので、クリケットのほかにも外でのびのびと遊ぶことができました。夜にかくれんぼをしたり、犬のラフイーとボール遊びをしたりと、気持ちがよかったです。湖へ泳ぎにも行きました。中学生になってからは、この様に外で体を動かして遊ぶ回数が減っていたので、いい刺激になりましたし、新鮮に感じられて楽しかったです。

《六日目》1月8日



世界遺産であるグレートバリアリーフに浮かぶグリーン島へ行きました。

写真などで綺麗な海をよく見ていたので、実際にここへ行くことを楽しみにしていました。

浅瀬にも魚がいっぱいいて、ずっと見ても飽きない景色でした。砂や貝殻などは持って帰ることは出来ない決まりですが、砂の感触や水中の様子は今でも鮮明に覚えています。

《七日目》1月9日

この日は植物園に行き、ホテルで職場見学をし、町で買い物をしました。

オーストラリアは植物の種類が豊富です。そしてその植物に関わる動物もいろいろ存在します。植物園では、オーストラリアの歴史と絡めて植物の説明をしていただきました。先住民アボリジニが食料としていたものや毒があるため注意されていたものなど、昔から存在してきた植物を直に見られました。

また、オーストラリアのこの地域は一年を通して温かく、背丈が高い植物も多く、植物園では左右も上も緑に囲まれて、ジャングルに迷い込んだようにも感じられました。

《八日目》1月10日

オーストラリアでの最後の日、キュランダ村へ向かいました。

このキュランダ村は、正式名称はクルンダ村なのですが、役所で間違えてuをaと書いてしまい、クランダ村と名づけられ、今ではキュランダ村と呼ばれるようになったというエピソードをもっています。この地

域も有名な観光スポットでたくさんの人が訪れるそうです。

ここではアボリジニのダンスショーを見ました。オーストラリアの先住民アボリジニは、ダンスの他に楽器を演奏したり槍投げやブーメラン投げを披露したりしてくれました。古くからの文化が今に引き継がれていることを身近に感じました。

また、彼らは自然と友達のように接していました。喜びのダンスには植物の葉を使い、楽器で野生動物の鳴き声の真似を披露してくれました。昔からのこの意識が環境への配慮につながっているのかと考えさせられました。



VIII 研修を終えて

オーストラリアでの日々はあっという間に感じられました。

不安に思っていた英語での会話も、積極的に話しかけることができるようになり、「言葉は違うけれど心は通じ合う」ということが実感できました。そして、私は今回の研修で、英語を使うことが楽しいと感じました。英語が分からなかったら、現地では後悔ばかりしていたと思います。簡単なことではありませんでしたが、相手にしっかり伝わったとき、分かってもらえたときはとても嬉しいものです。話す言葉が増えるということは自分の世界が広がることだと感じました。

環境のために私たちができることは、少しだけ意識を変えることだということもわかりました。突然にというのは難しいですが、自分の生活の中で無駄がないかを確認して、簡単な身近なものから頑張っていけるようになればいいと思います。

今回は滅多にできない貴重な経験をさせていただくことができました。楽しい思い出がいっぱいの研修となり、準備をしてくれた家族や、今回の研修に当たりお世話をしてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。この思いを忘れずに、私が感じた英語の楽しさや環境のためにできることをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

オーストラリアでの研修を終えて

NO. 18 仙北中学校 大山 隼

1 はじめに

僕はこれまでに学んできた英語が本当に通じるかどうかを確かめたいという思いと、オーストラリアの文化に興味があり、この海外派遣事業に参加しました。海外は今までの自分にとって遠い存在であることも理由の一つでした。

2 研究テーマ設定の理由

学校の社会の時間に地理の学習をしているとき、オーストラリアの環境について学びました。その際オーストラリアでは、水が不足していることを知りました。オーストラリアでは水不足に対してどのような対策をしているのか疑問に思い、研究テーマを「節水の取組には、どのような工夫があるだろうか？」に決定しました。オーストラリアでは常に気を張り、水不足に対して行っていることを見逃さないようにしようと考えました。

3 研究テーマについて

(1) オーストラリアの人々が節水のために取り組んでいたこと

オーストラリアで一週間生活をしているうちに、取り組んでいる事が徐々に分かってきました。まず、食事は毎食大きいお皿一枚に全ての食べ物が載って出てきていることに気づきました。これはお皿を洗う時の水の量を減らすために、使う食器の数をなるべく少なくするためだと思いました。



ファームステイ先の家には大きい貯水タンクが二つありました。とても大きいタンクだったので何日分もの水を貯めることができるのだろうなと思いました。下の写真はその貯水タンクです。

さらにトイレには、「田舎の下水路はつまりやすいのでトイレットペーパーを一度にたくさん流さないでください」というはり紙もありました。水不足は、このような所にも影響があるのかと思いました。



<大きな貯水タンク>

研修 7 日目に日本人の方が働いているホテルを訪問した時に、節水についてどのような取組をしているかたずねたところ、「ホテルではお客様に節水の協力をお願いすることはできないので、極力ホテル側で取り組むようにしている」という答えが返ってきました。特に、ホテルのなかで一番水を使うのは洗濯なので、なるべく洗濯物の量を減らすようにしていると教えてくれました。

(2) 研究のまとめ

オーストラリアの人々は水の使用量に常に気を使っていました。

僕たちが住んでいる大仙市は自然環境がよく、水も豊富にあり不自由はありません。しかし、3.11の東日本大震災のときは改めて水のありがたみを知りました。それ以来、日本では「節水」「節電」という言葉がひんばんに聞かれるようになりましたが、その取組はオーストラリアと比べればまだまだだと思いました。

そこで僕は、オーストラリアのような取組を大仙市でも広げていきたいと思いました。今回の研修では、限りある資源を大切に使うことの重要性を知ることができ、勉強になりました。

4 日程紹介

次にオーストラリアでの日程を紹介していきます。

*1 日目

仙台空港から飛行機でグアムへ。グアムから飛行機を乗り継いでケアンズに到着。初めての飛行機だったのでドキドキしましたが楽しかったです。

*2 日目

マンガリーフォールズのロッジに到着！

朝食をとり、各ファームステイ先のホストファミリーと面会したあと、車でステイ先に移動。



<ファームステイ先のお宅>

急な坂道を上り下りしながらヤギのいる丘までエサをあげに行きました。大人のヤギには干し草などを、子供のヤギにはミルクをあげました。

*3 日目

車で 30 分ほどかけて風力発電ファームに行きました。とても風が強く、秋田県の沿岸にある風車とは回転数が全然違って、たくさん発電している印象をうけました。午後からは牛の乳しぼりを見学に行きました。

*4 日目

この日は日本の文化紹介として、ホストファミリーにそうめんと味噌汁と抹茶をつくってご馳走しました。ちょっとしたアクシデントもありましたがとても喜んでくれたのでよかったです。夕食の前には、ホストファザーのボブさんとみんなで楽しく UNO をしました。

*5 日目

ホストファミリーとのお別れは寂しかったけれど、笑顔で手を振ってお別れしました。

昼食後のオーギーキッズとの交流では、チーム対抗の障害物レースをしました。積極的に声をかけてくれたので、楽しかったです。バーベキューのあとのダンスも盛り上がりました。

*6 日目

マンガリーフォールズを離れ、ケアンズへ。フェリーに乗ってグリーン島に向かいました。グリーン島ではシュノーケリングを体験しました。

シュノーケリングでは、グレートバリアリーフの珊瑚礁や魚を間近に見ることができました。けれど背中が日焼けでヒリヒリして痛かったです。

*7 日目

植物園で、オーストラリアにある植物は毒をもっているものが多いということを知りびっくりしました。それでも先住民のアボリジニの人たちは工夫して食べていたと聞き驚きました。

ホテルへの職場訪問では、普段見ることができない現場の裏側を見ることができたのでよかったです。

*8 日目

オーストラリア滞在最後の日となったこの日は、キュランダ鉄道の列車に乗ってキュランダ村に向かいました。列車の中では、テレビ番組「世界の車窓から」のオープニングに 12 年間使われたという景色を生で見ました。とても絵になる景色で、12 年間使われていた理由がわかりました。

その後のアボリジニのダンスショーでは、アボリジニと一緒に踊れたのでよい思い出になりました。

*9 日目

ケアンズ空港からグアム経由で仙台空港へ。飛行機の中では熟睡しました。

5 全体を振り返って

初めての海外だったので不安でしたが、終わってみるととても充実した 9 日間でした。文化の違いに多少慌てたりはしましたが、それもよい経験だったと思います。

コミュニケーションで大切なのは、笑顔で接する事だとも感じました。なぜなら笑顔で接すると、相手がよく聞き取れなかった場合でも笑顔で聞き返してくれるからです。こうすることによりお互いに気持ちよくコミュニケーションを図ることができました。これらの経験を将来に活かしていきたいです。

最後に今度は自分でお金を貯めてオーストラリアに行きたいと思っています。

オーストラリアの自然環境から学ぶ

NO. 19 仙北中学校 竹村 侑花

I はじめに

私がこの海外派遣事業に参加した動機は二つあります。一つは日本とオーストラリアの文化や、自然環境、食事などの違いに興味があったからです。もう一つは学校で身に付けた自分の英語力がどれほど通じるかを知りたいと思ったからです。海外での9日間のくらしで日本ではできない体験をしたり、見たりすることで視野を広げ、心身ともに少しでも成長できたらいいなと思いました。

II テーマ設定の理由

研究テーマ

『日本の自然環境をよりよくするにはどうするべきか?』

今、私たちの住んでいる日本には、多くのビルや工場が建ち並び、開発という名の下にどんどん森林が伐採され、自然破壊が進んでいるように思います。また、祖父や祖母も「昔に比べ、明らかに街からも緑が少なくなっている。」と言っています。

この現状を考えると、私たちが大人になった時、日本はどうなってしまおうのだろうという不安がつのります。そこで、オーストラリアを訪れ、動植物の様子を見たり、素晴らしい自然環境の中で過ごしたりすることで日本の未来のために何ができるかのヒントをつかむことができるのではないかと思い、このテーマを設定しました。

【植物園で見たバナナの木】



III 調べた内容（オーストラリアの自然から学ぶ）

私は、日本の自然環境をさらによくするにはどうすればよいか、そのヒントを探るため、オーストラリアの植物や動物の様子に注目してみました。

1 植物について

オーストラリアには日本では見られない植物がたくさんあり、特に熱帯雨林は、見上げるほどの高さで植物が生い茂っていました。また、独特の開花植物が多いのも熱帯雨林の特徴の一つで、カラフルな花も見ることができました。ガイドさんの話ではこの国の熱帯雨林には、二万種の維管束植物が生息しているそうで、その種類の多さにも驚かされました。他にもたくさんの珍しい植物があるようでしたが、私がパンフレットやガイドさんの話、事前学習などで調べ興味をもった植物についてもう少し詳しく紹介したいと思います。

一つめはオーストラリアの木として最も広く知られている「ユーカリ」です。ユーカリは湿地帯の森林や乾燥した内陸部、湿度の高い沿岸の森林まで、幅広い環境で見られる植物です。ユーカリの葉を好むことで知られるコアラは実はユーカリの中でも特定の種類のものしか食べないという事実も初めて知りました。

二つめはワイルドフラワーです。野生の花々が広い大地やサバンナの草原を季節に応じて覆い尽くします。6月から9月までは西オーストラリア州全体で1万2000種類、8月から10月中旬にかけては南オーストラリア州のカンガルー島で100種類のワイルドフラワーが咲き乱れるそうです。春先の草原はまるで絨毯を敷いたように黄色やピンク、白く輝く鮮やかな色のワイルドフラワーで覆われ、人々の目を楽しませてくれるそうです。ワイルドフラワーは、この国では大事に保護され、採取は禁止されているとのことでした。

2 動物について

オーストラリアの動物は私にとって珍しいものばかりでした。今回私が会うことのできた動物は、コアラ・ワラビー・バッファロー・羊などです。日本でも見ることのできる動物では、豚・牛・ヤギ・アヒルなどがいました。特に印象に残っているのは、ワラビーとコアラです。

ワラビーにはホストファミリーに連れて行ってもらった場所で会うことができました。檻などはなく、自然の中で自由に行動していることに驚きました。ワラビーは、カンガルーの小型種でカンガルーと同じく後ろ足で立つことができます。ワラビーにあげるえさを持って、近くにあった岩に座ると、すぐにワラビーがえさを求めてやってきました。人懐っこくかわいかったです。このような体験はめったにすることができないので、いい思い出になりました。

コアラは、キュランダに行った時に一緒に写真を撮りました。コアラが自分からしがみついてきてくれて可愛かったです。今までは絵や写真でしか見たことがなかったので実際に触れあうことができ、とても貴重な体験ができたと思います。

【自然の中のワラビー】



3 体験や調査からの考察

日本の自然環境はオーストラリアに比べるとあまりよくないと思いました。オーストラリアには広い草原や大地があり、そこには青々と茂った植物や美しい花が咲き乱れています。その恵まれた自然のおかげで多くの動物たちが安心して住むことができるのかもしれませんが、また、大きな通りにはたくさんの木々が植えられ、人々の目と心を癒してくれています。それに比べて日本はどうでしょう。オーストラリアに比べると目にする植物が少ない気がします。

植物園のガイドさんやファームステイ先で教えていただいたことですが、植物には多くの効用があるそうです。一つは誰もが知っているように二酸化炭素を取り入れ、酸素を放出することです。大気汚染を防ぐために大きな役割を果たしています。二つめはあまり知られていないようですが、室内に置かれる観葉植物には空気中に散乱しているカビを抑制し、乾燥を防止する力もあるそうです。そして、三つめは目の疲れを癒し、心身ともにリフレッシュさせてくれる働きです。オーストラリアの人たちはこのような植物のすばらしさを理解しているようです。

その他にも感心させられたことがあります。オーストラリアの人たちは節水を心がけていますが、それは自分たちの生活のためだけでなく、水は植物の成長にも必要不可欠だからという理由のようです。植物を守るためにも水を大事にしているのです。日本でももっと植物を増やしていく必要があるのではないかと思います。そのために私たちにできることは何か考えました。

一つはなるべく多くの人々が「緑の羽根募金」に協力し、日本の国土緑化に協力することです。この運動がどんどん活発になれば、オーストラリアのように緑が増えていくと思います。二つめはそれぞれが自分の庭に草花を植えたり、ミニプランタや観葉植物などを室内に置いたりするように心がけることだと思います。このことが人々の心身を癒したり、空気の汚染を防いだりしながら日本の自然環境を快適にしていくことにつながるのではないかと思います。

IV エピソード

1 ファームステイでの出来事と思い出

【ファームステイ先の家族とともに】



オーストラリアに着いてすぐ、まだ慣れない状況の中私たちは、ファームステイ先のパパ「ハンズさん」に会いました。パパは、ユニークで楽しく、73歳とは思えない元気な方でした。ファームステイ先に着いて真っ先に私たちの元へやってきてくれたのは、人懐っこい大きくて可愛いペツ

トの犬でした。そのあと、庭から出てきたのがママ「マリータさん」でした。ママも、明るくて面白い方でした。家は、日本とは違うおしゃれな洋風の家で、私たちが使わせてもらった部屋は、カラフルな壁紙やベッドなどが可愛い印象でした。

一日目は、午後から牛を見に連れて行ってもらいました。パパの話では、放牧している牛たちを集めて乳を搾るのだそうです。私は初めて牛乳が作られる過程を見たので、勉強になりました。

二日目は、ピクニックに行き、カンガルーの小型種『ワラビー』とふれあいました。ワラビーは、私の予想をはるかに超える可愛さでした。毛がふさふさしていて、岩に座って待っていると寄ってくる人懐っこい動物でした。日本にはいない動物とあって感動しました。ピクニックから帰りママ手作りのベリーケーキを食べました。ベリーケーキは、甘酸っぱくて美味しかったです。

その後は家のプールに入りました。プールは、一番深いところで2メートルあって、油断すると溺れてしまいそうでしたが、一緒に行ったみんなで楽しく泳ぐことができました。

三日目は、パパがショッピングに連れて行ってくれました。フリーマーケットや、宝石店など、日本では見たことがないようなお店に行くことができました。午後からは、チーズとチョコレート専門店がパパがチョコレートを買ってくれました。濃厚で凄く美味しかったです。そのあと、チーズを作っている工場の中や牛や鶏も見せていただきました。

最終日、お世話になったお礼に、折り紙の鶴をつなげてメッセージをつけたものをプレゼントしました。二人はとても喜んでくれました。マンガリーのロッジに戻る前に、パパが滝とバッファローを見に連れて行ってくれました。滝の前で写真を撮ってもらい、最後は笑顔で別れることができ、いい思い出を残すことができました。

2 ケアンズでの思い出

【アボリジニのショーの一場面】

1月9日・10日は、ケアンズでの行動でした。ケアンズはマンガリーよりも都会的な感じがしました。たくさんの人が歩いていて、一人していると迷子になりそうなところでした。

9日は、植物園でたくさん植物について学ぶことができました。オーストラリアは非常に温かいので、毒を持つ植物が多く、大変危険であることを知りました。



午後からはショッピングセンターで自由行動でした。ショッピングセンターは日本と似た感じでしたが、日本にはないような商品もありました。フードコートには、寿司や、日本でもおなじみのファストフード『マクドナルド』などもありました。

10日は、キュランダに行きました。キュランダでは、アボリジニの文化などを学ぶことができました。アボリジニのダンス、ブーメラン投げなど、楽しみながらたくさん学べるいい機会になりました。キュランダに向かう鉄道は、とてもきれいな眺めで思い出に残っています。

V 海外研修を終えて

私は、この海外研修で多くの貴重な体験をし、たくさんのことを学ぶことができたという充実感があります。海外の見ず知らずの家にファームステイし、英語でコミュニケーションをとることもできました。おかげで自分の英語力を高めることができたし、人とのコミュニケーションは言葉だけではないということもオーストラリアに行って実感させられました。また、自分で決めたテーマについても深く考えることができたと思います。この海外派遣事業で学んだことを、これからの勉強、生活などに大いに生かして頑張りたいと思います。

今回、海外派遣事業に関わって頂いた皆さん本当にありがとうございました。

【キュランダへ向かう車窓から見た風景】



どうすれば自然を残し、環境を 守ることができるのだろうか？

派遣生番号 No. 20 大仙市立太田中学校 本谷 桃香

★はじめに

この海外研修に参加できたことは、忘れられない貴重な体験になりました。私が海外研修に応募した一番の理由は、英語の聞き取りや話す力をつけるとともに、日本と違う文化に触れてみたいと思ったからです。オーストラリアについては、社会科の授業やテレビなどからある程度のことは知っていました。しかし、実際にオーストラリアに行ってみると、これまで学んできた以上の発見や感動がありました。

★テーマ設定の理由

地球温暖化の進行。これは世界中の人々の力によって解決しなければならない問題です。地球温暖化を防ぐための一つの方策として、森林などの自然を保護することがあります。しかし、今の日本、そして世界では、これらの自然はだんだん減少しているのが現状です。研究テーマを決める前に、オーストラリアについていろいろ学びました。その際、「オーストラリアでは自然を守るために、さまざまな工夫をしている」ことがわかりました。そこで私は、自然を守るためのさまざまな工夫を知り、日本に帰ってきてからも学んだことを生かしていけると思い、「どうすれば自然を残し、環境を守ることができるのだろうか？」というテーマを設定しました。

★調べたこととわかったこと

オーストラリアに滞在し、生活した中で感じたことがあります。それは、**水**をととても大切にしているということです。私がファームステイしたお宅では、水を大切に使うために工夫していることがありました。それは、雨水をタンクに貯め、その雨水をいろいろなことに利用していることです。また、シャワーは一人4分までと決まっていました。私はそこまでシャワーの時間を気にしたことがなかったので焦りましたが、自分なりに工夫し、なんとか乗り切ることができました。

水の他にも、大切にされているものがあります。それは**電気**です。ステイ先のお宅では、電気は太陽光発電になっていて、1日に使える量も限られていました。近年、日本でもよく言われている「節水」・「節電」には、とても意識が高いということがわかりました。

また、買い物をするときにも日本と異なることに気づきました。日本では、お土産を買ったときには、小分けの袋をもらうことができます。しかし、オーストラリアは環境を守るための一環として、小分けの袋は、渡さないことにしているそうです。

海外研修6日目に訪れたグリーン島では、観光するみなさんに、いくつかのお願いをしているそうです。それは、「サンゴを採らない、サンゴの上に立たない、貝殻などを帰

らない、鳥にえさをあげない・・・」などです。サンゴに触れてしまうと、サンゴが死んでしまいます。そうすると、海の中の環境が変わってしまうので採ったり立ったりしないように呼びかけているそうです。また、世界自然遺産のため、貝殻などを持って帰ることは禁じられているそうです。さらに、鳥にえさを与えてしまうと、動物の環境が変わってしまい、鳥が絶滅してしまう恐れがあるということでした。グリーン島では、このように、観光客の皆さんにも協力してもらいながら環境を守り、この世界自然遺産を残しているのだと思いました。

ファームステイをした家族の方&植物園のガイドさんに質問しました！！

●ファームステイをした家族の方へ質問

Q. 1年にどれくらいの木を使いますか？

A. 家を暖めるために年間5本の木を使っています。また、牛の放牧地を囲うためにも使っています。

Q. どのように森林を保っていますか？

A. 伐採しすぎずに、木の間隔を保ちながら、水路に沿って育てています。

●植物園のガイドさんへ質問

Q. 自然を守っていくために、私たちは何をすればよいと思いますか？

A. 自分の誕生日のときだけでいいから、木の苗を一本植えてほしいです。木が育つまでにはかなりの時間がかかります。植えてもすぐには大きくなりません。だから、地道に植えていかないと木は増えていかないのです。

★まとめ

オーストラリアの人たちは、水や電気など限りある資源を大切に使ったり、自然環境を守るために積極的に行動していることがわかりました。だからこそ、オーストラリアの自然が美しく守られているのだと思いました。それに比べて、日本人はどうでしょうか。私たちは、オーストラリアの人たちから学ばなければいけないことがたくさんあると感じました。私は、オーストラリアから帰ってきてから、シャワーの時間を短めにするなど水を大切にしたり、買い物の際はE C Oバッグを積極的に持ち歩くようにしています。小さなことですが、続けていけば、やがて大きなことにつながっていくと思います。こうした取り組みが自然を残し、環境を守る第一歩だと感じました。

★エピソード

1月4日～1月7日

私たちがお世話になったファームステイ先のお宅では、40頭ほど牛を飼っていました。敷地内には、木や花などたくさんの植物もありました。

ホストファミリーに何回かドライブに連れて行っていただきました。ドライブ先では、いろいろな滝を見ました。その際、ホストファミリーが、「これはオーストラリアの植物だから、取っちゃダメだよ。あと、毒のある植物もあるからね。」と、教えてくれました。ホストファミリーはとても陽気な人たちで、3日間、楽しく過ごすことができました。



ファームステイした家

1月7日

海外研修5日目には、オージーキッズと交流しました。オージーキッズとは、オーストラリアに住んでいる私たちと同じくらいの年齢の人たちです。障害物リレーやウォータースライダーなどでみんなと交流することができました。ウォータースライダーは、2～3Mくらいの台からジャンプします。最初は怖くて見ているだけでした。しかし、1回だけチャレンジしてみると、思った以上に楽しくて、スリル満点でした。水に入ったときは、溺れるのでは…と心配しましたが、すぐにロープを投げ入れてもらい、安心しました。オージーキッズと交流した場所は、世界自然遺産にもなっています。たくさんの植物に囲まれて遊ぶのは、とても気持ちのいいものだと思えました。

またこの日の夜、土ボタルを見に行きました。土ボタルは、自ら光を放ち虫をおびき寄せ、その虫を食べます。ただ、懐中電灯などの光を当てられたり、手の上へのせたりするとすぐに死んでしまいます。土ボタルの数が減り、絶滅に繋がってしまわないよう、見に来ている人たちに、気を付けてもらっているそうです。暗い中に青と緑の光を放つ土ボタル。とても幻想的で、目を奪われる光景でした。

1月8日

海外研修6日目。世界自然遺産のグレートバリアリーフに浮かぶグリーン島を観光しました。この日は晴天だったためかなり日焼けしてしまいました。



←泳いでいるカメ

グリーン島の海→



1月9日

海外研修7日目には、自然環境学習として植物園を訪れました。植物園では、ガイドの方からいろいろな話を聞くことができました。

ここは、オーストラリアだけでなく、世界各地の植物が集まっている植物園でした。この植物園で育て、いつかはその地域に返そうと考えているそうです。

また、植物のなかには、触れただけで皮膚から毒が入り体内にたまり続けるというものもありました。他にも、そのまま食べられる植物や、針が刺さるとなかなか抜けない植物など、とても種類が豊富で見ごたえのある植物園でした。オーストラリアでは昔、女性は、植物で衣類をつくるのが仕事だったという話も聞きました。



毒をもつ植物

植物園の後に訪れたのは、ケアンズにあるヒルトンホテルです。ホテルでは、普段見ることができないところを見学させていただきました。ホテルからは海が見え、景色がきれいでした。このホテルには多くの日本人観光客が訪れるそうです。私は、ホテルの従業員の方に「お客様を迎えるうえで一番気を付けていることは何ですか？」と質問しました。すると、「挨拶や接し方、ゴミがないようにするなど基本的なこと」だと話してくださいました。従業員の方々が一生懸命働いている姿は強く印象に残りました。

1月10日

飛行機で飛び立つ日の午前、キュランダ溪谷鉄道に乗り、キュランダを訪問しました。ここでは、アボリジニショーやブーメラン投げを体験しました。アボリジニショーでは、小さい子から年配の方まで幅広い年齢の方たちがダンスを披露してくれました。ブーメラン投げでは、自分が投げたブーメランが半分くらいまで戻ってきたことに驚いてしまいました。また、見ると幸せになれるといわれている蝶「Ulysses（ユリシス）」。私は、その蝶を見ることができたのです！！それを見たときは、最高に幸せな気分になり、はしゃいでしまいました。



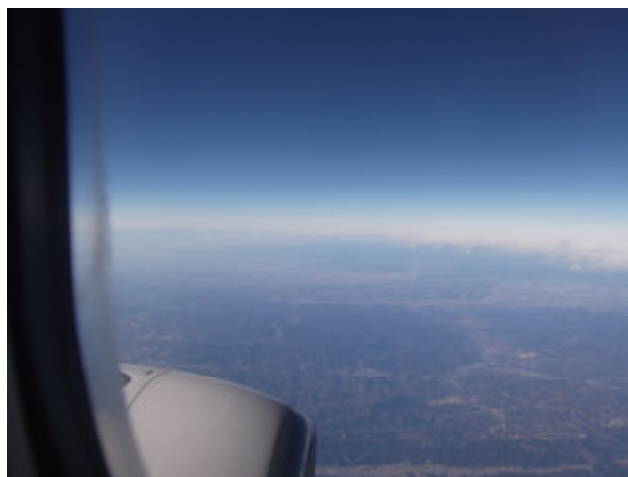
キュランダ溪谷鉄道

★海外研修を終えて

今回の海外研修では、今まで知らなかったオーストラリアの魅力をたくさん学ぶことができました。

オーストラリアは南半球に位置するので、日本とは正反対の気候でした。また、日本とは食文化も違いました。日本では主食はほとんどがお米ですが、オーストラリアではパンやシリアルが主食でした。そのため、時々日本食が食べたいと思うこともありました。日本に帰ってきたときは、無事に帰ってくることができたと、とても安心しました。

今回オーストラリアで学んだ自然や環境を大切にしていける姿勢は、自分にできる小さな取り組みを実践し続けていくことで、周りの人にも広めていきたいと思います。



飛行機から見た日本

**また、今回ご協力して下さった皆さん、本当にありがとうございました。
この思い出は一生の宝物です！！**

クイズの答えは ④ 6000万匹 カンガルーの数は人口の約3倍です。

大仙市教育委員会